

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり（別冊） —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを、学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにして学力の向上を図るか、その理念や方法等を「かけがわ学力向上ものがたり」として平成26年3月に策定しました。

3年目を迎える本年度は、これまでの実践を基に、かけがわ型スキルを生かした新たな学びのプロセスをとおして、子どもたちの確かな学力の向上のために積極的な授業改善への取組を推進します。

各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。これを基盤とした共通理解と共通実践をとおして、全教職員が組織的な協働を図っていきます。

さらに、学校だけでなく、家庭力・地域力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

平成28年6月
掛川市教育委員会

目 次

頁

【小学校】

1	日坂小学校	2
2	東山口小学校	4
3	西山口小学校	6
4	上内田小学校	8
5	城北小学校	10
6	第一小学校	12
7	第二小学校	14
8	中央小学校	16
9	曾我小学校	18
10	桜木小学校	20
11	和田岡小学校	22
12	原谷小学校	24
13	原田小学校	26
14	西郷小学校	28
15	倉真小学校	30
16	土方小学校	32
17	佐束小学校	34
18	中小学校	36
19	大坂小学校	38
20	千浜小学校	40
21	横須賀小学校	42
22	大淵小学校	44

【中学校】

23	栄川中学校	48
24	東中学校	50
25	西中学校	52
26	桜が丘中学校	54
27	原野谷中学校	56
28	北中学校	58
29	城東中学校	60
30	大浜中学校	62
31	大須賀中学校	64

小 学 校

掛川市立日坂小学校 平成28年度 我が校のものがたり

日坂小の子どもたち

- 楽しい授業がある・あいさつができる・学校が楽しい…約 100 %
- 授業や学校に来ることを楽しみにしている。地域行事等にも進んで参加している。
- 自主性や自己主張力、主体性、リーダーシップの発揮、創造力等を伸ばしていきたい。
- 発表は多い…でも、考えが**深まる**ところまでは至っていない。
目的をもった交流方法を工夫し、学力向上をめざしていく。

研修

テーマ **じっくり考え、表現できる子～進んでかかわり、自分を深める～**

栄中学校区合同研修テーマ

めざす子どもの姿

- ① 自分の思いや考えをわかりやすく表現する子
～学年相応の言葉の力を養い、正しく理解・表現する～
- ② **考えを比べながら聴き、深め合う子**
～つけたい力を意識して、友達とかかわることで自分を高める～

校内研修(日々の授業・研究授業・朝活動等)で
つけたい力を明確にして ⇒ 学力向上

計画 (P l a n)

【研修テーマに向かって】

① わかりやすく表現する力をつけるために！

【自分の思いや考えをより**わかりやすく表現**することができる力】

⇒ 学習の基礎となる語彙力、

言葉の特徴やきまりを正しく理解する力を伸ばす！



② 深め合う力をつけるために！

【友達と**積極的にかかわり**、自分の学習に生かそうとする力】

⇒ 課題を明確にし、

言語によるかかわりの場を意図的に設定する！



手立て (Do)



日坂小の授業

① 課題・学習問題

赤囲み

※ **つけたい力の意識**

↓ (子どもにもわかるように)

② 自分の考え作り

↓

③ 交流活動

↓

④ まとめ

青囲み

※ **つけたい力を押さえる**

☆ 公開授業週間で他学級の授業参観

☆ 各学年でつけたい力を明確にする。
「各学年の系統性を意識」

☆ 深め合う交流活動

◎ **目的をもった交流形態を意図的に設定**

2人、3人…、ジクソー、教え合い…

○ 取り組みたくなる課題の設定

言語活動の充実

① 朝活動

☆ 読書・音読

☆ 言葉の力をつける

- ・ 正しく視写
- ・ 慣用句、文法
- ことわざ…

② スピーチタイム

- ・ 朝、帰りの会
- 集い、式…

③ 国語辞典一人一冊
常備 (3~6年)

家庭学習の充実 ~家庭との連携 (栄川中学校区「家庭学習の手引き」)~

① 家庭学習の時間のめやす

② 家庭学習での見届け方 → 「本読みカード」で連携!

1~3年	4年	5年	6年
30分	40分	50分	60分

低学年	高学年・中学校
そばで見守る	学習が終わったら声をかける

- ・ 家族と学習時刻を決めて、本読みカードに記入!
- ・ 励ましの言葉を!!

検証 (Check)



① 研究授業 (年6回)

※ 全教員で事前研、参観、事後研 → 成果と課題から次へ繋げる。



② ぐんぐんテスト (国・算…年2回)

※ 定着度を把握し、その後の指導に生かす。

※ 個別ファイル記録作成…保護者面談で活用する。

① 音読発表会

- ・ 音読
- ・ 百人一首

② 学習発表会 (12月)

③ 百人一首大会 (2月)



「わかりやすく表現する子」



「みんなで深め合う子」



をめします!

Action
P→D→G→A



掛川市立東山口小学校 平成28年度 我が校のものがたり

「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えたい

東山口小学校の子どもたちは真面目に一生懸命に学ぼうとする子が多く、与えられた課題に対して前向きに取り組むことができる。放課後学習「寺子屋」やチャレンジテストに取り組むことで、基礎基本の力もついてきた。しかし、そこには個人差があり、今後も個別に対応していく必要がある。また、学習に対して受け身なところがあり、自ら学ぼうという意識が低い。これらの実態を踏まえ、「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えていくのが本校の学力向上物語と考える。



学習の基盤づくり（学びの幹をつくり、枝葉を生き茂らせるために）

⑤ 学習支援環境＜寺子屋(放課後学習支援教室)＞

- ・毎週月曜日の放課後に学習支援教室「寺子屋」を設定。児童一人一人に個別の支援を行う。

○内容例：国語・算数の復習。低学年では、視写や聴写、ことわざや文法学習。中高学年では、読解力を高める学習、作文の段階的指導を取り入れる。

⑤ 学習支援環境＜夏休み寺子屋＞

- ・夏季休業中に3日間、「夏休み寺子屋」の日を設定。一斉学習で習得が不十分な児童や家庭学習の習慣がつかない児童等を対象に全職員で個別指導に当たる。

合わせて「水泳特訓」（泳げない子の水泳指導）を実施。

④ 校内自主テスト

年間3回の国語・算数チャレンジテストを実施。読み書き計算力の基礎や応用力の定着を狙い、児童は目標合格点に達するまで繰り返しチャレンジ、基礎的な力を伸ばしている。本年度は、学年に応じた作文指導を取り入れていく。

② 「発表名人表」の取組

聴き方・話し方をレベルアップさせるために、全校共通で「発表名人表」に取り組む。常に児童に意識させ取り組むことで、話す力・聴く力を育てていく。



③ 語彙を豊かにする指導

【言葉の指導】

言葉にこだわった聴き方、話し方、読み取り方や辞書の活用。「今月の詩」の暗唱などの取組、また、条件をつけたりキーワードを入れたりした作文指導を、毎日の学習カードや週末の作文ノート、ワークシートなどを利用して行う。学年の目標に応じた指導をする。

低：順序を整理し、簡単な構成を考えて書く。

中：段落相互の関係に注意して書く。

高：文章全体の構成の効果を考えて書く。

【読書指導】

毎朝10分間の読書タイム。学級文庫には「この本、読もう」（国語教科書巻末付録参照）を置き、推薦図書にふれる環境を整えている。学年に応じた読書目標、記録の記入、職員やボランティアによる読み聞かせや親子読書を実施。

① 安心して学び合える学級づくり

本校が子どもの学力向上に向けて一番大切にしていることは、学級づくりである。安心して自分の意見が言える、学び合える、支持的風土の醸成を目指して全職員で取り組んでいく。



職員研修の充実（学びの根を確かめ、授業改善の推進のために）

① 校内研修の活性化

研修の窓口教科を「国語科」とし、願う子どもの姿を目指して研修に取り組んでいる。

【テーマ】 「進んで表現し、深め合う授業」

願う姿 **表現**

自分の考えを進んでわかりやすく伝える。

(低) 話題に沿って順序よく話す (中) 相手や目的に応じて、筋道を立てて話す

(高) 言葉を選んで使い要点をまとめて話す

深め合い 友達の考えを聞き、考えて話す。

(低) よいところを見つけて感想を伝え合う (中) 質問や感想、意見を述べ合う

(高) 目的に応じて助言し合う

【静岡県の授業改善の視点】

- 1 押さえる：学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。
- 2 仕掛ける：付けたい力に沿って効果的な手だてを仕掛ける。
- 3 確かめる：子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。

【掛川市の学びのプロセスを取り入れた東山口授業づくり三原則】

- ① 焦点化・授業過程の再構築：学習の見通しを持たせる。
- ② 言語活動の充実：互いの考えを伝え合い発展させる
- ③ 視覚化：板書の構造化。掲示物、教具の工夫。ICTの活用。

② 栄川学園共通の取組

【互いに学び合う授業公開】

年間3回の授業公開と3回の保育公開を行い、1園3校の教諭が3グループに分かれて学び合っている。共通のテーマである「じっくり考え、表現できる子」の育成を目指し、各校がどのような手立てを持って授業づくりをしているのか、その具現を見て話し合う一貫教育研修会を年間3回予定している。教師は12年間を見通した視点で子どもの学び方について研修を深める。

【学習ルール統一】

- ・「話す・聞く」ルール……友達の方を向いて話す聞く、聞くときは聞く、書くときは書く。
- ・「ノート」のルール……日付を書く、詰めて書かない、学習課題（学習問題）は赤で囲む。全ての教科で考えの足跡を残す、「振り返り」自分の考えの軌跡を書く。
- ・「家庭学習」のルール……中学校区一斉に作成した「家庭学習の手引き」を全戸に配布し、幼稚園から中学校までの家庭学習の仕方を保護者にも理解していただき、家庭学習の充実を図る。

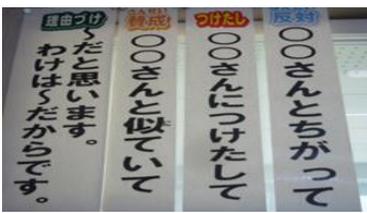
東山口小学校は、全職員が全児童を理解し関わることで安定した学校づくりがなされている。地域の協力も得られ、栄川学園の園・学校とも連絡を密にとることができる。この小規模校の利点を生かして子どもたちに質の高い学びを保障していく。

掛川市立西山口小学校

平成28年度 我が校のものがたり

「基礎基本の確実な定着」のものがたり

日常の言語活動の充実

話す	【話し方】	【伝え合いの言葉】	【声出しタイム】
			
聞く	【聴き方 (聞く聴く山)】	【自己評価 (今年度より)】	
			

基礎・基本の確実な定着

1	朝活動「ぐんぐんタイム」	毎週(金)15分間授業
2	国・算定期テスト	年5回テスト期間設定(全校一斉実施)
3	放課後「とことん学習」	年間数回実施(算数)
4	夏休みチャレンジ学習	3日間実施(国語・算数)
5	読書の充実	学校(朝活動(毎週3回)) + 家庭での読書啓発(家読)

わが家の家庭学習ものがたり

西山口小「わが家の家庭学習ものがたり」を各家庭で作成する際の手引として、各学年の目標を挙げて、具休的かつ実践的な内容を挙げておきます。各学年の目標は、各家庭で作成する際の手引として、各学年の目標を挙げて、具休的かつ実践的な内容を挙げておきます。

学年	目標	実践的な内容	効果的か	学年(教科)	学年(家庭学習)	学年(家庭学習)
1	●読む楽しさを知る ●書く楽しさを知る ●算数の楽しさを知る	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	国語(家庭学習)	国語(家庭学習)	算数(家庭学習)
2	●読む楽しさを知る ●書く楽しさを知る ●算数の楽しさを知る	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	国語(家庭学習)	国語(家庭学習)	算数(家庭学習)
3	●読む楽しさを知る ●書く楽しさを知る ●算数の楽しさを知る	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	国語(家庭学習)	国語(家庭学習)	算数(家庭学習)
4	●読む楽しさを知る ●書く楽しさを知る ●算数の楽しさを知る	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	国語(家庭学習)	国語(家庭学習)	算数(家庭学習)
5	●読む楽しさを知る ●書く楽しさを知る ●算数の楽しさを知る	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	●教科書やワークシートを親子で読む ●「わが家の学習時間」を親子で決める ●「わが家の学習場所」を親子で決める	国語(家庭学習)	国語(家庭学習)	算数(家庭学習)



わが家の家庭学習ものがたり

学習の楽しさを知る

学習の場所を決める

学習の時間を決める

学習の目標を決める

学習の記録をつける

学習の振り返りをする

学習の楽しさを知る

学習の場所を決める

学習の時間を決める

学習の目標を決める

学習の記録をつける

学習の振り返りをする

【ベースをもとに親子で話し合い】

【目にとまる場所に掲示して実践 → 振り返り】

「言語活動の充実により学力を伸ばす」ものがたり

【平成 27 年度 学校評価結果】

児 童		保 護 者	
授業の内容が分かる	91%	お子さんは授業の内容を理解している。	91%
人の話を目と心を向けて聞いている。	94%	お子さんは視線を合わせて話を話したり聞いたりしている。	92%
進んで自分の考えを発表したり話し合ったりしている。	82%	お子さんは進んで自分の考えを発表したり、話し合ったりしている。	83%



このような結果を受けて、平成 28 年度西山口小学校では、学校評価から見えた「自分の考えを伝える」項目において、子どもたち自身が、自信をもって「自分の考えを伝える」ことができるような授業を展開していきます。そこで、今年度の研修テーマを、以下のように設定しました。

思いを受けとめ 伝えられる子の育成 ～付けたい力を明確にした言語活動と学習問題の設定を通じて～

また、授業を展開していく中で、以下の2点に焦点を当てて、授業研究を推進していきます。

- 付けたい力を明確にして、単元は構成されているか。
- 付けたい力を明確にして、1時間の授業を構成しているか。

○各教科においては、言語活動を意識して取り組みます。

国語科	単元を貫く言語活動と付けたい力を明確にした課題を設定し、学力を伸ばします。
算数科	「何を」「何のために」「どのように」学ぶのかを明確にして授業を構想し、言語活動によって、付けたい力と共に思考力・判断力・表現力を高めます。
他教科	目標達成に有効な言語活動と、付けたい力を明確にした課題設定を工夫して授業を構想します。

○学びの UD(ユニバーサルデザイン)の視点を、授業の中の手立てとして取り入れます。

焦点化	「押さえた」付けたい力に対して学習問題や活動を焦点化した授業を展開します。
視覚化	文字や音声言語に加え視覚的な情報を効果的に活用します。
共有化	一人一人の学びを伝え合い、全員で理解を深めます。

○校内研修の方法を工夫し、全職員で学び合います。

中心授業	全職員で参観し、「成果」「課題」を出し合い、「なぜそのような成果や課題が生まれたのか?」「その課題を解決する代案は何か?」を検討し、学び合います。
校内研修	全員が参観した中心授業の後、今の研修の進捗状況を KPT 法で検討します。K(keep)・P(problem)・T(try)に合わせて出し合い、次回の研修につなげます。
振り返り	授業を参観した後、明日から生かしたい学んだことを振り返りとして書きます。

掛川市立上内田小学校

平成28年度 我が校のものがたり

「できた!」「わかった!」

言語活動

- 読書活動
 - ・朝の読書・読み聞かせ
 - ・学校図書館の有効活用
 - ・移動図書館、市内図書館の利用促進
- 図書室の本や資料の充実
 - 総合的な学習や各教科での調べ学習などに活用する図書や資料を揃える
- 子ども新聞の購読、活用
 - 新聞を通して社会への関心を持ち、読むことに慣れる
- 朝活動の作文タイムの活用
 - 「条件にあった文」「短時間」を目標にして書くことに慣れる

- 筋道を立てて論理的に考える力
- 互いに考えを伝え合う力
- 自分の考えを自分の言葉で表現する力
 - 場を設定し、力を育てる

学ぶ意欲

- 「学びの時間」の充実
 - ・金曜日放課後の補充・発展学習
 - ・個に応じた指導
- 教材研究の時間の確保
 - ・金曜日放課後に教材研究の時間の設定
 - ・教材教具の準備
- 掛東中生によるサマースクールの実施
 - ・教師と掛東中生（本校の卒業生）による夏季休業中の補習学習
- 授業を見る週間（年間3期）
 - ・上の学年の授業を子どもが見る

- 朝の活動
 - ・ドリルタイム（漢字・計算）の補充学習
 - ・国語の音読、詩の暗唱
 - ・朝のスピーチ

学力向上

「やってみたい!」「なぜ?」があふれでる授業

- つけたい力の明確化
 - 指導と評価の一体化 「学習問題」→「学習のまとめ」→「確かめる」→力をつける
- 活動の工夫…ICT機器や具体物の活用、可視化（わかりやすい板書）
- 確かめる活動の位置づけ…練習問題、学習事項を説明するワークシート、小テスト等
- TT授業・個別指導
- 個の変容と見取り
 - ・まとめの段階での実態（ノート、発言）
 - ・小テスト、単元別テストによる数値化した状況把握

【家庭学習】

- 家庭学習の習慣づくり（家庭学習の手引き）
 - ・低学年30分 中学年40分 高学年1時間以上
 - ・かみうちだの学びの約束
 - ・生活リズムの見直し、わんわん運動
 - 「ノーメディア」、「早寝、早起き、朝ごはん」

【にこじろう運動】

- 子どもに自信をつけさせるために自己肯定感や自己有用感を持たせ、自尊感情を高める。
 - ・子どものよさやよい表れを称揚
 - ・子どもの理解、称揚の質的向上
 - ・担任、校長、家庭からの称揚



1 児童の実態（H27 年度全国学力学習状況調査より）

- ・国語は、漢字や文法などの基本的なものはできるが、文章の読み取りができない。特に、短時間で長文を読み、考える力が弱い。
- ・算数は、四則計算などの基本的なものはできるが、筋道を立てて思考力を問う問題に弱い。

2 「やってみたい!」「なぜ!」があふれでる授業

(1) つけたい力の明確化

- ・本時で何を学習するのか、何を考えるのかはっきりさせる。→【学習問題】
- ・思考を助けるために、学習していることをわかりやすく表す→【可視化】
- ・個への支援→【TT 授業】
- ・個の変容と見取り→【学習のまとめ】
 まとめの段階での実態把握（ノート、発言、練習問題）
 小テスト、単元別テストによる数値化した状況把握

(2) 授業展開の工夫

- ・子どもが興味を持つ導入
- ・早い段階での「やってみたい」と思える学習問題の提示
- ・わかりやすい板書、ICT 機器や具体物の活用
- ・追求する時間の確保、充実（考える・調べる・話し合う）
- ・確かめる時間の確保、充実（わかったことを自分の言葉で書く・練習問題）

3 言語活動の充実

(1) 「読む」力の向上

- ・朝の読書、読み聞かせの時間の充実 →読み聞かせボランティアの活用
 図書館司書の活用
- ・図書室の本や資料を整備→「読みたい」という欲求の喚起、調べ学習に対応
- ・子ども新聞の購買、活用→社会に関心を持つ、読むことに慣れる

(2) 「書く」力の向上

- ・作文タイム（朝活動週 1 回）の時間の活用→条件に合った文、短時間
- ・授業のまとめの時間→自分の言葉で書く
- ・家庭学習の日記→毎日書き続けることで、書くことに慣れる

(3) 「話す・聴く」力の向上

- ・筋道を立てて考える力→事実や既習事項等から考え、説明する。
- ・互いに考えを伝え合う力→考えを発展させる。
- ・自分の考えを自分の言葉で表現する力→体験から。情報を分析・評価する。

4 学ぶ意欲を持たせるための環境

- ・「学びの時間」→毎週金曜日の放課後、補充・発展的学習。個別支援。
- ・「にこじろう運動」→自信をつけさせる。子どものよさやよい表れを認め、全校に広める。学校と家庭の両方で称揚する。
- ・家庭・地域との連携→家庭学習の見届け・基本的生活習慣の確立・地域の人材活用
 わんわんわん運動（毎月 15 日）の設定
- ・夏休みの「サマースクール」→卒業生の掛東中生や教師による補習学習。
 先輩に教わることが意欲につながる。
- ・教師の研修→教材研究の時間の設定。気楽に相談できる職員集団。



掛川市立城北小学校

平成28年度 我が校のものがたり

(序) 今までの本校の児童

城北小ではどの学級も落ち着いて授業に取り組み、自分の考えを深め、学びに浸る子どもの姿が多く見られる。そして、思いや考えを他に伝えようと夢中になる子どもが多い。平成27年度の全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科共に県・全国平均を上回った。子どもたちの学習意欲と学力の向上は、城北小の子どものよさと職員の熱心な指導とともに、これまで取り組んできた「かがやき賞」により、子どものよさを見取り、自己肯定感、自尊感情を伸ばす教育、ユニバーサルデザインの視点での授業づくり・生活づくりの取り組み等による丁寧な支援によって育まれてきた。→**本校のよさ**

しかし、自分の考えをもてても、それを表現することの苦手な子どもがいたり、積極的な一部の子どもだけで学び合いが展開されたりすることも見られる。→**本校の課題**

平成28年度 城北小のものがたり

研究主題 学び合い 高め合う授業づくり～確かな学力の育成～

【研修仮説】じょうほく型「新たな学びのプロセス」を基盤とし、授業過程の再構築を3つの視点をもとに授業改善をすれば、学び合い高め合う授業になり、「確かな学力」が身に付くだろう。

《城北小がとらえる「確かな学力」を身につけた子ども像》

- ・ 既習事項や体験等を用いて学習問題に挑戦する子
- ・ 根拠を明らかにして自分の考えを表現できる子
- ・ 友達の考えを受け止めてさらに考えを深め、表現できる子
- ・ 理解したことや新たな疑問、次時への意欲を表現できる子



「かけがわ型スキル」の育成をもとに、じょうほく型「新たな学びのプロセス」

①～⑨を構築する (城北小ものがたり その①～その⑨)

その① 授業過程の再構築

付けたい力・ねらいを明確にした授業『押さえる』

- ・ 学習指導要領や授業づくり指針が示す付けたい力に沿った本時の目標
- ・ 本時の目標と達成するための学習問題
- ・ 他学年、他教科との関連事項、既習事項の導入部分での工夫

主体的にかかわる中で自己の考えを深めたり高めたりする「学び合い」の実現『仕掛ける』

- ・ 子どもが自分の考えを持つための工夫（ワークシート、教具、既習事項の確認等）
- ・ 子ども同士でさらに考えを深めるための場の設定（ペアやグループの話合い等）
- ・ 自分の考えの深化した内容や、意見の変化等を発表し合う場の設定

子どもが学びを実感できるふり返りの場の設定『確かめる』

- ・ 「まとめ」や「ふり返り」の時間の確保
- ※「まとめ」…本時の学びの確認（一斉） 「ふり返り」…感想、新たな疑問、次時への意欲等（個人）
- ・ 本時の目標と学習問題と「まとめ」の整合性

四部体制の推進による じょうほく型「新たな学びのプロセス」

学びづくり部

その② 言語活動の充実

- 金じろうタイム…「書く力をつける」活動 ○スピーチタイム…「話す力をつける」活動
- 各教科…言語活動で培った力を活用する

その③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 授業で基礎・基本の定着を丁寧に行う ○授業で「つきたい力」を明確にする
- 本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の徹底した定着
- 宿題の質・量の向上や家庭学習充実のための家庭への働きかけ

その④ 読書活動の充実と学校図書館を活用

- 読書の習慣化 朝読書の充実 読書ボランティアによる読み聞かせ
- 図書室を活用した授業実践…図書館司書・読書ボランティアとの連携

心づくり部

その⑤ 心の教育の充実

- 「かがやき賞」の授与により、自己肯定感を高める
- 人間関係プログラムの充実

その⑥ 道徳教育の充実

- 「かけがわ道徳」の実践の充実
- 道徳コーナーの設置・活用
- 「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたい -掛川の偉人ものがたり-」の活用

体づくり部

その⑦ 健康教育・体づくり活動の充実

- 食を通して子どもたちの心と体を育てる
- 食育についての保護者の方々への啓発…「健康食育の日」
- 体カづくりの充実…GOGOチャレンジ・朝ランニング

特別支援教育部

その⑧ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

- じょうほく型スタンダード「授業づくり」「生活づくり」の推進
- 特別支援教育の情報発信

ユニバーサルデザインの視点での授業づくり・生活づくりは 城北小教育の基盤として行う

その⑨ 家庭（地域）への発信と連携

- 家庭への発信…各種たより ○家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」
- 学校生活の約束…「城北小学校生活の約束」 ○あいさつ活動の充実

学年体制による推進（一年部・二年部・三年部・四年部・五年部・六年部・特支学級）

かけがわ型スキル（思考力・問題解決力・意思決定力・コミュニケーション力・情報の選択・活用力・地域や社会の中で生きるためのキャリア体験）

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「授業づくり」「生活づくり」を基盤にして、「かけがわ型スキル」をもとに、教師がつきたい力、ねらいを明確にする。子どもが主体的に他とかかわりをもつ授業を構想して、学びを実感できる振り返りの場を十分に確保していき、子どもたちが「確かな学力」を身に付け、学び合い高め合う授業を行っていく。



掛川市立第一小学校

平成28年度 我が校のものがたり

学校教育目標 花いっぱい 笑顔いっぱい 活気いっぱい

(思いやりの花いっぱい) (できた、わかった、もっとの笑顔いっぱい) (みんなでがんばり活気いっぱい)

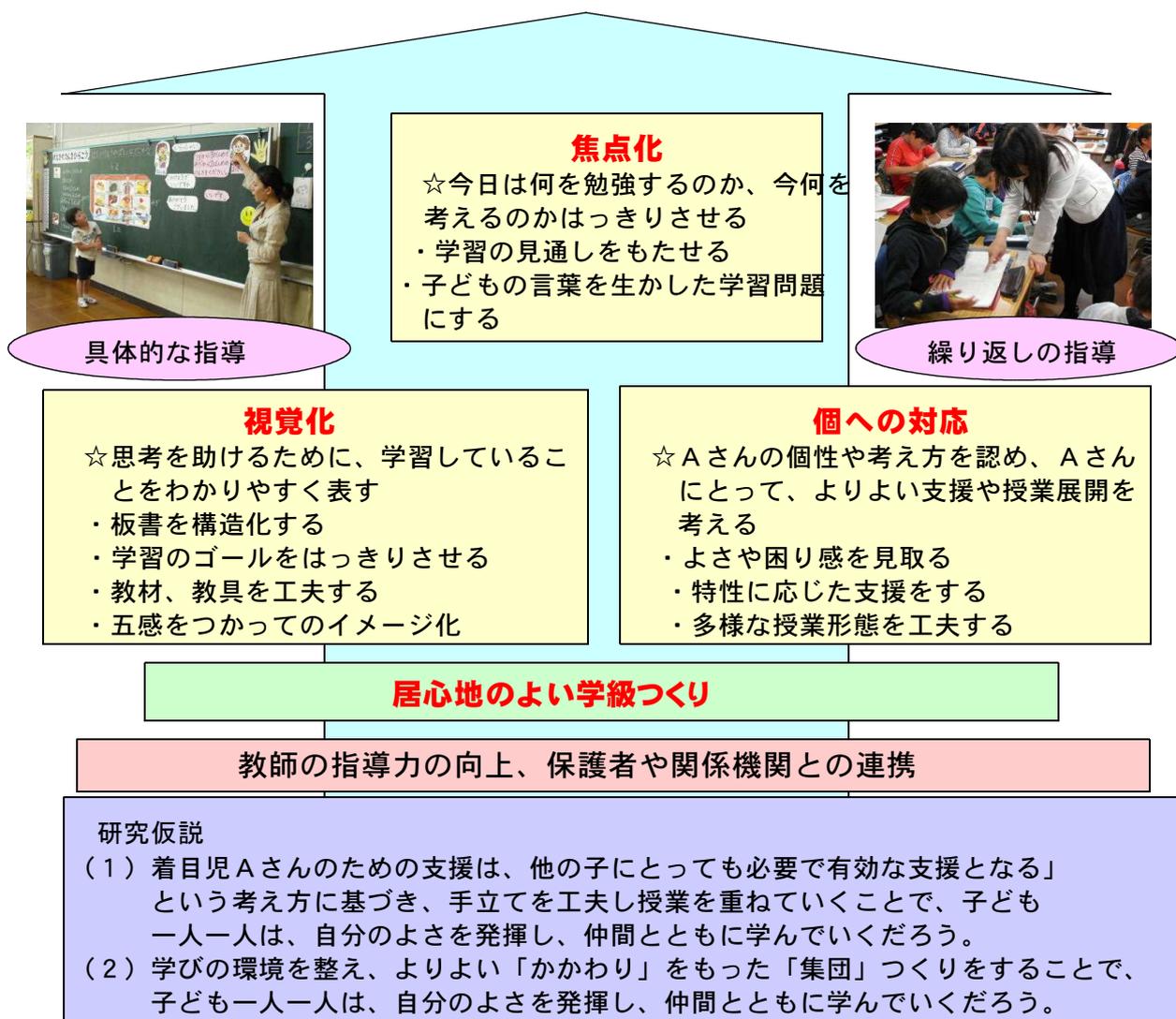
研修主題 自分のよさを発揮し ともに学ぶ子の育成

～「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善～

掛一小で大切にしている指導方針

- 子どもを変えるのは「日々の授業」(1時間の授業を大切にしている教師)
- 子どもを変えるのは「使命感と情熱をもち一歩前進する教師」
- 子どもを変えるのは「子どもを観察し(見続ける、理解し続ける)、認める教師」
- 子どもを変えるのは「具体的な指導と繰り返しの指導」
- 子どもを変えるのは「学校経営、学年経営、学級経営のつながり」(学年力)

「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善の手立て



学力向上重点項目

- 授業力の向上（できた、わかった、もっとの笑顔いっぱい・主体的に学ぶ意欲を高める授業）
 - ★日々の授業（1時間の授業）を大切にす。
 - （居心地のいい学級・授業づくりのための「授業の心得」「教師の心得」を常に意識・実行する。
 - ★学びのユニバーサルデザインによる授業改善（視覚化、焦点化、個への対応）を進める。
 - ★生徒指導（一日の生活づくり、10この約束）、学習の約束（学習に集中するために）の指導
 - ★居心地のよい環境づくり（挨拶・言葉の指導、教室環境づくり、よりよい集団づくり）
 - ★家庭学習（「力がつく笑顔いっぱいの家庭学習」の浸透・実行、家庭における読書活動の充実）
 - ★毎週の学年会（学年研修）の実施、学年主任による評価（共通理解より共通実践を大切に。）

45分の授業における「学びのユニバーサルデザイン」

- 授業の前に
 - ☆児童の実態をつかみ、教材を分析する。
 - ☆教師の願い（ねらい）を明確にし、単元を構想する。
- 授業の中で（「教師の心得より」）
 - ☆発問や指示は表情豊かに「短・単・端」（短く・単純・端的）に。
 - ☆ユーモア（笑顔）と心地よい緊張（静寂）の場面をつくろう！
 - ☆認めよう！大いにほめよう！そして広めよう！

○焦点化

- 例** 写真や挿絵をもとに気付いたことを出し合い疑問を共有する。
- 例** 付箋のたくさん張られた場所から考えを出し、学習問題につなげる。
- 例** 前時の疑問から本時の学習問題を提示する。
- 例** 何を考えるのか課題を明確にする。
- 例** 学習問題から問いを絞る。

○視覚化

- 例** 絵や写真、大事な言葉をきちんと考えた板書計画。
- 例** 授業案に板書計画を立てて臨む。（授業のゴール意識）
- 例** 会話を色分けして提示したり順番に並べたりして気持ちの変化を読み取りやすくする。
- 例** 具体的な操作、動作化で思考を深める。

○個への対応

- 例** 具体物、半具体物を使って指導する。
- 例** ペアやグループで交流し、考えを深め合う場をつくる。
- 例** 自分の考えがもてるように、文字の大きさや字数、挿絵、吹き出しを工夫したワークシートを使用する。
- 例** 一人一人の興味に基づいた学習問題の設定や、まとめの時間を確保する。

時間	学習の流れ	
5	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">学習問題の提示</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">個人追究</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ★開始と終了の時刻を守る ★学習問題を赤枠で囲む ★焦点化で考えることを明確に ★視覚化の視点で学んでいることがわかる板書に ★ノート指導で個に対応 ★作業や操作、具体物を取り入れる
20	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">考えの交流</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ★ペアやグループで交流することで、疑問を解決したり理解を深めたりする ★交流により、お互いの考えのよさを認め合い、居心地のよい学級をつくる
35	 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">まとめ</div>	<ul style="list-style-type: none"> ★まとめを青枠で囲む
45		

掛川市立第二小学校

平成28年度 我が校のものがたり

1 校内研修の充実

- ・ 研究主題：「主体的に学ぶ児童を育てる授業づくり」
- ・ 研究仮説：国語科や算数科の授業において、児童が進んで取り組みたくなる「単元計画や導入」を工夫し、付けたい力に即した「交流活動」を工夫することで、児童が主体的に学ぶことにつながるだろう。
- ・ 主体的に学ぶ姿を見取る「掛二小スコープ」を用い、教師の働きかけや児童の主体的に学ぶ姿を追求する。

2 掛二小授業実践項目の徹底

- ① 特別支援を基盤にした授業をしよう。【挑戦ステージ】
 - ② 教具を活用しよう。【挑戦ステージ】
 - ③ 評価の計画をもとう。【感謝ステージ】
 - ④ 板書計画をもとう。【成長ステージ】
 - ⑤ チャイムで授業を始めよう。【笑顔ステージ】
 - ⑥ 学習課題（学習問題）は赤、まとめは青で囲もう。【笑顔ステージ】
 - ⑦ 子ども同士が関わり合う場を設定しよう。【成長ステージ】
 - ⑧ 聴く・話すのルールを徹底しよう。【挑戦ステージ】
 - ⑨ 発表している子どもの目を見て聞こう。【笑顔ステージ】
 - ⑩ 授業の中で、子どもの良さを見取り、子どもに返していこう。【感謝ステージ】
- ※【 】は重点ステージ

3 少人数指導

- ・ 2年生、3年生、4年生、5年生、6年生を対象に算数授業において2C3T、3C4Tの少人数指導を行う。
- ・ 習熟度別クラス編成を基本として、単元により、編成を見直す。
- ・ 担任と級外職員で教材研究を行うことで、児童の興味関心をひく教材や課題を工夫したり、体験的な活動等、五感に訴える学習を展開したりして、一人ひとりの学ぶ意欲を高め、実感を伴った理解を深める。
- ・ 児童一人一人の学ぶ過程を重視し、やり遂げた達成感や充実感を味わわせ、より高い目標に向けて努力しようとする態度を育てる。

4 名文・詩文の暗唱

- ・ 多くの名文、詩文に触れ、声に出して読む楽しさを感じ、語彙や表現方法を身に付ける。
- ・ 掛二小暗唱カードに沿って練習させ、教師がチェックし、賞揚する。

- ・ ステージごとに2作品を決め、暗唱させる。

ステージ	暗唱させたい名文・詩文
笑顔	「木」「春暁」
挑戦	「せかいじゅうの海が」「大きくなると・・・」
成長	「たべもの」「短歌・俳句に親しもう」
感謝	「はたはたのうた」「百人一首」

5 家庭学習の工夫

学年	時間	主な学習内容	保護者の支援
低学年	1年 20分	・本読み ・ひらがな・カタカナ・漢字書き取り ・計算練習	・できるだけ児童のそばに寄り添い、相談にのったり、できたことを認めたりする。 ・間違いはその場で正しく直させる。
	2年 30分	・日記、作文など ・読書	
中学年	3年 40分	・本読み。読書 ・漢字・ローマ字の書き取り	・最後の見届けをする。 ・間違いは正しく直すようにアドバイスする。
	4年 50分	・計算練習 ・日記、作文など	
高学年	5年 60分	・本読み、読書 ・漢字の書き取り	・最後の見届けをする。
	6年 70分	・計算練習 ・意味調べ、調べ学習など ・日記、作文など	

6 読書指導

- ・ 読書目標冊数を設定し、読書量を増やす。
1・2年…150冊、3・4年…100冊、5・6年…50冊
- ・ 学年のおすすめ本リストに紹介されている本を10冊以上読み、読書の幅を広げる。
- ・ 毎朝8:00～8:10は読書タイムとして、静かに本と向き合う。(火曜日は除く)
- ・ 保護者と共に、家庭での読書「家読」をすすめる。

7 朝学習

- ・ 毎週火曜日8:00～8:10の朝活動の時間に、国語・算数のドリルやテストを実施する。
- ・ 不合格者は合格するまで指導し、学習内容の定着を図り、学力を向上させる。

8 掛二っ子チャレンジテスト

- ・ 年3回(7月,12月,2月)国語テスト、算数テストを行い、基礎・基本を定着させる。
- ・ 国語テストは、漢字、文法などの基礎・基本の問題。
- ・ 算数テストは、計算、図形等の基礎・基本の問題。
- ・ 50題程度を基本として、学年ごとに担任が問題を作成する。
- ・ 合格ラインは9割正答を基本とし、合格するまで指導する。

掛川市立中央小学校

平成28年度 我が校のものがたり

学校教育目標

夢だいて はげましあう子

重点目標

笑顔いっぱい～「3BIG」と「あったかアクション」で～

研修テーマ

「伝え合う子」の育成

校内研修

①中心授業

国語科を窓口とした
低・中・高学年部による
年3回の中心授業

③学習指導要領改訂への対応

- ・道徳の教科化
- ・アクティブラーニング
- ・ICT活用

④県・市の方針の理解

- 授業づくり規準
- よりよい自分をつくっていくためにIV
- 授業改善の視点
- 学力向上ものがたり

研修の重点

意図的な「思いや考えを伝え合う」場の設定

②学年部研修

- ・公開授業（全学級）
- ・国語科単元構想の作成（年1本以上）
- ・教材研究

確かな学力を身に付けさせる 授業づくり

- ・中央小スタイル
- ・「中央小の授業づくり」
共通実践項目
- ・Give ample praise
（ほめちぎれ！！）
- ・授業を見合おう週間

研修の土台

コミュニケーション能力

3BIGの育成

- 「3BIG」表 
- 「BIGVOICEで説明名人！」表
- 伝え合う力を向上させる場（行事）の設定

あったかアクションの育成

伝え合いの意欲

学習環境の整備

- 学習の約束
- ドリルタイムの充実
- 家庭学習の手引き
- Weekend 漢字 try
- ステップアップタイム

支持的風土の
学級づくり

子ども理解
（実態把握）

読書指導
図書館教育

特別支援教育
学びのユニバーサルデザイン

◆研修テーマに沿った授業づくり

昨年度の教員へのアンケートを基に、「伝え合う子の育成」を研修テーマと定めた。また、研修の重点を「意図的な『思いや考えを伝え合う』場の設定」とし、児童同士の伝え合いの成立、その質の向上を目指している。

「伝え合い」の土台となる「伝える力」「受け止める力」の向上のために「『伝え合う子』の姿」を作成し、目指す姿として意識できるようにしている。

◆校内研修の充実

年3回の中心授業、一人1回以上の公開授業を年間計画に位置づけている。また、計画的、共通的な学年研修を行い、教材研究の日常化、共有化を進める。お互いに教室を見合ったり、教材やノート、板書写真等を持ち寄ったりするなど、掲示や教具のアイデア、予定黒板の書き方等を学び合う。校内研修にも3回の学年研修を位置づけ、学年部1本の単元構想づくりを行う。

◇「3BIG」と「あったかアクション」の姿の育成

中央小では、学校生活の中で願う子どもの現れとして、「3BIG」と「あったかアクション」という言葉で児童と共に共通理解している。教室前面に掲示し、目指す姿として活用している。

◇「BIG VOICEで説明名人」表の活用

児童にとっては「話す」「書く」の表現力向上のための「型」である。この表に示された表現を意識して使用することで、児童が表現の幅を広げ、いずれ自分の言葉として使いこなすことができるように期待して作成されたものである。

◇期末ドリルタイム・朝ドリルタイム

毎週月曜日の朝活動の時間を「朝ドリルタイム」として設定し、漢字定着のための時間として活用している。またステージ末の1週間は「期末ドリルタイム」として、基礎学力の定着を図る時間として、プリントや小テストを行っている。

◇家庭学習の手引き

家庭学習（宿題＋自主勉強）のモデルとして各家庭に配付し、周知を図っている。

◇Weekend 漢字 try

定着度調査の反省から、昨年度学習した漢字の定着に課題が見られた。そこで、週末の家庭学習に昨年度学習した漢字の内容を取り入れ、定着を図るようにした。

◇ステップアップタイム

月に1回、補習の時間を設けている。学習の定着が図れていない児童や補習を希望する児童を対象に行っている。

◇「中央小の授業づくり」共通実践項目

教師が日々の授業づくりで意識する10の内容を共通理解し実践することで、授業の質の向上を目指している。

中央小「伝え合う子」の姿

	低学年	中学年	高学年
BIG EYES	※相手の言っていることをわかろうとして聞く 「わからない」「もう一度言って」「なんで」	※相手の言っていることをわかろうとして聞く 「ここがわからないから教えて」「このところがわからないから教えて」	※相手の意図をわかろうとして聞く 助言 「こうしてあげたらいいんじゃない？」 「これを覚えて説明してあげよう？」
	※自分の思いや考えを伝えようとする 「なるほど」「ああ」「すごい」「たしかに」「同じ」「違う」「すごい」「いいね」 相手の話をよく聞く うなずきながら聞く 手をかきあげて聞く	※相手の思いや考えを伝えようとする 「〇〇さんの意見に賛成で（違っても）」「〇〇さんの意見に反対で（違っても）」	※自分の思いや考えを伝えようとする 「〇〇さんとは違いますが」「〇〇さんとは違いますが」「〇〇さんとは違いますが」
	※相手の言っていることをわかろうとして聞く 「わからない」「もう一度言って」「なんで」	※相手の言っていることをわかろうとして聞く 「ここがわからないから教えて」「このところがわからないから教えて」	※相手の意図をわかろうとして聞く 助言 「こうしてあげたらいいんじゃない？」 「これを覚えて説明してあげよう？」
BIG VOICE	※自分の考えを整理して話す 順序よく話す 「はじめに」「つぎに」「ついでに」「最後に」 相手の方を見ながら話す ※相手にわかるように話す ゆっくり話す 声をはっきりと出す	※自分の考えを整理して話す 順序よく話す 「はじめに」「つぎに」「ついでに」「最後に」 相手の方を見ながら話す ※相手にわかるように話す ゆっくり話す 声をはっきりと出す	※自分の考えを整理して話す 順序よく話す 「はじめに」「つぎに」「ついでに」「最後に」 相手の方を見ながら話す ※相手にわかるように話す ゆっくり話す 声をはっきりと出す

「3BIG」と「あったかアクション」

BIG EYES BIG VOICE BIG HEART
思いを受け止める 分かりやすく伝える 意欲的に活動する

"BIG EYES"	"BIG VOICE"	"BIG HEART"
① 手にもも持たない	① 「はい」と返事をして	① さあ、やろう！
② 正しい姿勢で	② みんなの方を向いて	② じっくりやろう！
③ 相手の方を見て	③ みんなに聞こえる声で	③ どんどんやろう！
④ 最後まで	④ はっきり最後まで	④ わねわね、教えて！
⑤ 反応を遅しなから	⑤ 反応をだしなから	⑤ ぼんぼん発表！
⑥ 比べながら	⑥ 理由をつけて	⑥ やる気いっぱい！

思いやりのある行動
「あったかアクション」

高学年用

BIG VOICEで説明名人！

自分の伝えたいことを、もっともっと分かりやすく伝えるために、こんな言い方があります。

番号	場面	伝え方
1	伝えやめるとき	私の考えは～です。理由は～です。理由は～がよいです。
2	順序よく言う	まず（最初は）、～です。次は、～です。最後は～です。
3	友達の見解につなげて言う	～さんと同じで～です。～さんと違って～です。～さんと少し違って～です。～さんに賛成/反対で～です。
4	例えて言う	例えば、～だと～の理由は～今回は～もし、～だったら～です。つまり、～です。要するに、～です。まとめて言う～です。
5	友達の意見をまとめて言う	〇の場面では～だったので～のことがわかって書くと～～したときみたい～です。
6	前の学習と比べて言う	ここまでは～でしたが、～はわかりましたか？〇ページの内容を見てください。～では？
7	聞いていない人たちの様子を確かめながら言う	（〇〇さん）、～はわかりますか？（〇〇さん）、口ほどちがいますか？
8	問いかけながら言う	
9	黒板に書きながら言う	

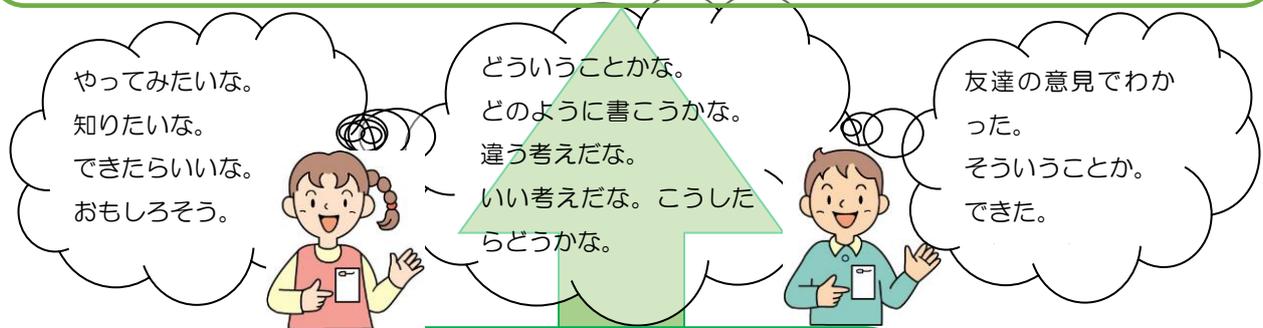
掛川市立曾我小学校

平成28年度 我が校のものがたり

本年度の曾我小学校では、研修テーマ「自分の思いや考えをより良く表現する子の育成」の実現に向けて、教師の様々な手立てを追究します。

研修テーマ 自分の思いや考えをより良く表現する子の育成

- めざす子どもの姿**
- ・ 思いや考えをもち、詳しく表現しようとする子
 - ・ 話し方を工夫し、伝えようとする子
 - ・ 友達と意見を交流し合うことによって、できたことを実感する子



【押さえる】

○児童を授業に

引きつける導入

例えば…

- ・ 既習事項を生かす
- ・ 生活と結び付ける
- ・ 具体物を用意する 等

早い段階で学習問題を提示する

【仕掛ける】

○児童の実態をつかんだ発問

- ・ 導入からのつながり
- ・ 実態やねらいに合った発問

○考えをより良く表現するための

手立て

- ・ 適切な言葉を使わせる
- ・ 伝わる話し方をさせる
- ・ 意見を出し合わせる
- ・ 意見を聞いて考えさせる 等

十分な時間をとって
より良い表現につなげる

【確かめる】

○学習問題に即した

振り返り

- ・ 振り返りを共有する場面をつくる
(全体・グループ・ペア 等)

- ・ できたことを実感

曾我っ子の課題

- ・ 体験や経験を言葉と結び付けて生き生きと豊かに表現できない。
- ・ 自分の言葉にして伝えたいという思いが弱く、十分な言葉を用いて伝えることができない。
- ・ 自分の考えが十分に深まらず、成就感を感じている様子が見られにくい。

校内研修では、以下のようなモデルで年間3回の研究授業を実施し、その授業の事前検討（授業デザイン）と事後省察に主眼をおきます。図1に示した一連のサイクルを通して校内研修参加者が新しい理解をし、日々の授業改善に努めます。

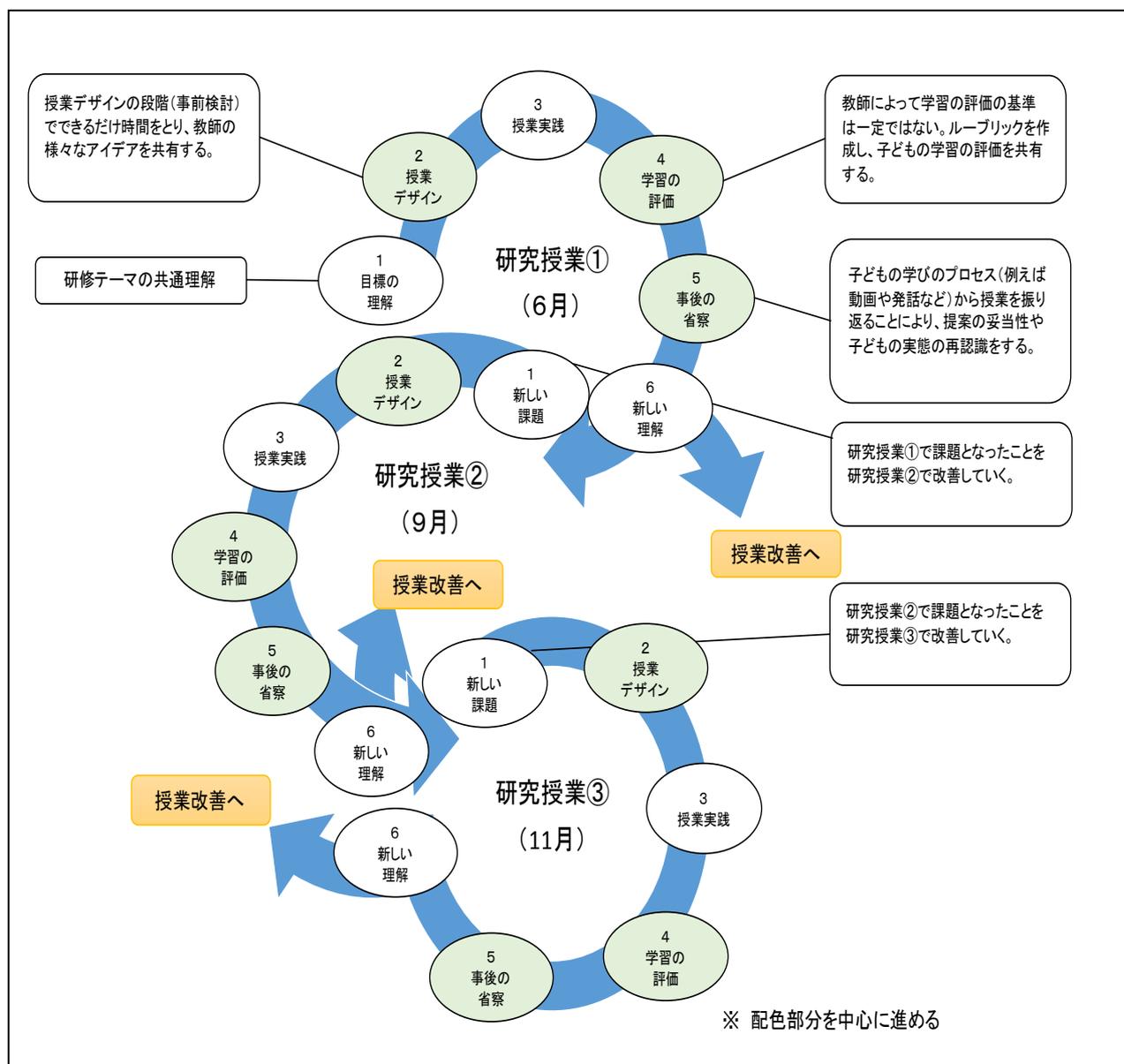


図1 曾我小校内研修モデル

日常的な学習指導

【学習3の徹底】

- ・聴き手を見て話す
- ・話し手を見て聴く
- ・学習用具をそろえる

【音読指導】

- ・毎日の音読(朝の会)
- ・音読コンテスト

【読書指導】

- ・年間100冊(低学年)
- ・年間学年×1000ページ(高学年)
- ・スペシャリストをめざす
- ・親子読書の取組

【聞く話すのスキルアップ】

- ・聞き方・話し方のレベルアップ表を用いた指導

【朝の国語学習】

- ・漢字の習得・文章を書く読む
- ・言葉の使い方
(主語・述語・修飾語)

掛川市立桜木小学校

平成28年度 我が校のものがたり

1 児童の状況

(1)学習事項の定着

(成果)

本年度の桜木小学校学力・学習状況調査の早期対応による結果は、主として知識に関わるA問題は、正答率50%以下の設問が国語1問、算数は無しであった。また無解答率も減少し、最後まで問題に取り組んでいる姿が見られる。

学校共通で行っている基礎基本の「のびのびテスト」への取組や、家庭学習の充実の呼びかけ、少人数学習での個に応じた指導が知識の定着につながっていると考えられる。

(課題)

国語・算数ともに活用に課題が見られる。国語については、国語に対する興味関心を持たせることや、目的を持って読み取ること、条件に応じて書くことが課題である。算数については、筋道を立てて考えること、考えを（言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて）数学的に表現することに課題がある。

(2)課題の原因分析

【読む力ー国語ー】

目的を持ち、それに応じて本や文章などを読む力が育っていない。読む目的は多様であるので、比べ読み、摘読、多読など様々な読み方があるが、どのような読み方が効果的か試したり、理解したりの経験が不足している。

また、全体をとらえたり、細部を的確に読み取ったりする力が育っていない。分かった気分になって、細部に気づけない傾向にある。表やグラフといった資料と文章を関連づけて読むことや、知りたい情報に着目して必要な部分を読み取るなどの授業が求められる。

【書く力・話す聞く力ー国語ー】

問題から書く内容が分かっても、書くための条件がそろわず正答にならないものが多くあった。書く内容に軽重をつけたり、必要に応じて選んだりする力が付いていない。また、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を思考して記述する経験が不足している。読み取った情報を相手に分かりやすく伝えるための言葉を選択することや、表現の内容や効果を比べて目的に応じて使い分けるなどの授業が求められる。

【考える力ー算数ー】

筋道を立てて考えて、判断の根拠を説明したり振り返ったりする力が育っていない。筋道を立てて考えた過程を説明し、説明の対象が明確になっていることや、根拠について過不足なく説明しているか見直す経験が必要である。そのためには、問題場面から立式し、計算の処理をした後、もう一度問題場面に戻って考察する経験を積み重ねることが必要である。

【数学的に表現する力ー算数ー】

自分の考えや理由を数字や式、言葉を使って分かるように説明する力が不足している。互いに自分の考えを表現し伝え合う上で、数学的に表現された考えを正しく解釈することが必要な力となる。

2 これからの取組

(1)重点課題

- ア 「学んでいく子」の育成
- イ 活用（応用）能力を高め、B問題に対応する力を付ける。

(2)取組計画

ア 授業の改善(国語)

- ・読む目的によって、本や文章の活用の仕方が変わり、そのために引用したり要約したりする部分が増えることを実感できるように継続的に指導する。
- ・相手の意図は何か、自分の考えとの相違点や共通点は何かなどを観察点として、相手の話を注意深く聞くことができるように指導する。
- ・考えを書く時には、～字以内、〇〇の文字を入れて、引用、～分までになど、条件を付けて文を書く場を設定する。要旨や感想などを100字程度の字数で手際よく条件を入れて組み立てていく力を付けていく。
- ・国語への関心を高め、語彙を増やすために日常の会話や文を正しく話したり書いたりする習慣を身に付けさせる。言語ゲームなどを取り入れ、言葉の力を付ける。

イ 授業の改善(算数)

- ・筋道を立てて考える力を付けるためには、問題を解くために分かったことを図があれば書き込んだり、分かっていることに線を引いたりするなど、解く過程がメモできるような指導をする。
- ・考えや理由を数字や式、言葉を使って分かるように説明する力を付けるためには図や式などを用いて問題を解決し、互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設ける。その際「なぜ？」と問い返すなどして、式の意味について過不足なく説明できているかどうかを確認させる。
- ・授業を公開し、互いの授業観について交流し合う。

ウ 子どもへの支援

- ・主体的協同的な学びに向かうため、「対話」ができる子を育て、問題の解決の中から次第に自分の疑問を感じ取ることができるようにする。
- ・自分の考えをもつため、問題を解決するため、他者に伝える工夫をして、主体的な学びに向かわせる。
- ・分からないことも、解決の上での失敗も共感し合える学級を作り、支持的風土のある学びの場を作る。

エ 家庭へのはたらきかけ

- ・家庭学習の習慣化を促す「桜が丘学園家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、発達段階に沿った具体的な手立てや支援の方策を伝えて、家庭でも学習を進める環境を整える。

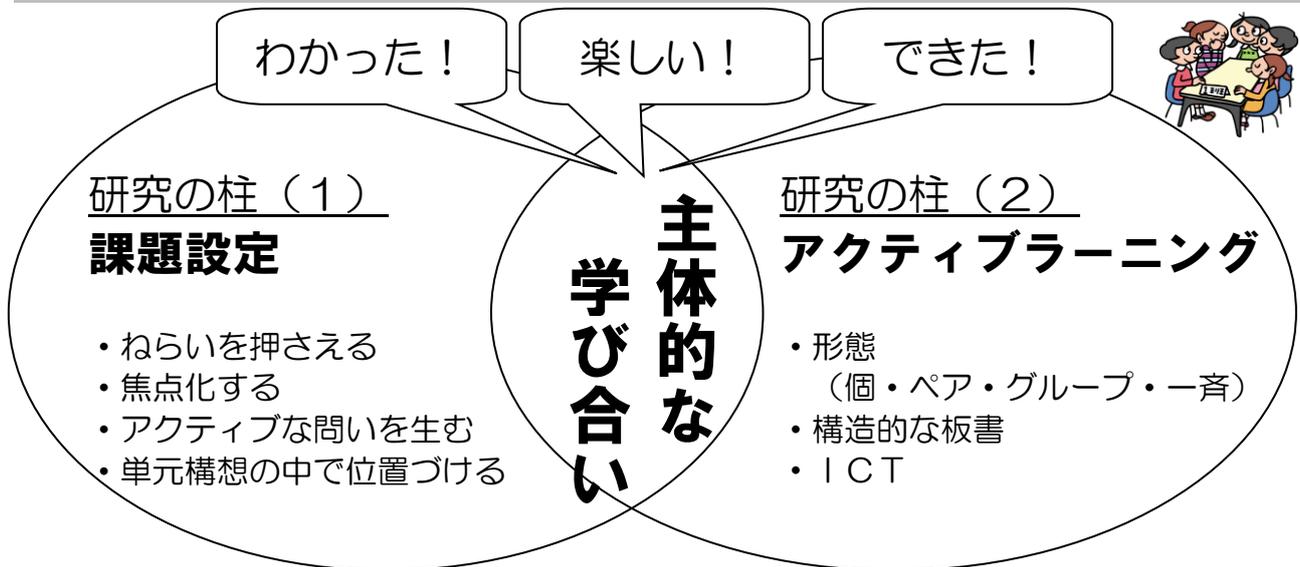
掛川市立 和田岡小学校

平成28年度 我が校のものがたり

研究主題 気づき 考え 一歩ふみ出す授業

研究仮説

「仕掛ける」場を充実させることで、子どもたちは主体的に深く考えて学び合い、思考力やコミュニケーション力を高めることができるだろう。



授業5原則 (桜が丘学園共通)	学びのUD「わだおか支援」(教師の意識)
①開始時刻を守ろう	わ：わかりやすい(指示・活動)
②きちんとあいさつをしよう	だ：だまって動ける(指導・環境整備)
③進んで表現しよう	お：おもいやりがある(温かい人間関係)
④人の話を集中して聴こう	か：かんがえたくなる(発問・仕掛け)
⑤忘れ物をなくそう	☆学びのUDの考え方(視覚化・焦点化・個への支援)

インクルーシブ教育 (どの子も認められる学級、どの子も学びやすい学習環境)

学びづくりの取組との連携

- 語彙の拡張(読書、国語辞典の活用、詩・俳句)
- 話す・聴く(音読、「話し方・聴き方名人カード」)
- テスト・調査(学力調査、確かめテスト、定着度)
- 補充学習(朝学習、放課後「和田岡タイム」)

体験活動・地域との連携

- 地域人材・地域教材に学ぶ「生活科」「総合学習」
- かけがわ道徳を踏まえた「道徳教育」(別葉1の活用)
- コミュニケーション力を高める「外国語活動」
- 縦の接続を生む「学校行事」

かけがわ型スキル ～かけがわ茶モデル～

課題設定

新たな学びのプロセス

アクティブ
ラーニング

わだおかスタイル

「気づき考え 一歩ふみ出す授業」

学びのユニバーサルデザインを重視した授業

授業過程の再構築

<p>導入・学習問題(5分)</p>	<p>押さえる</p>	<p>○学習指導要領解説をよりどころに、単元でつきたい力や本時のねらいを明確にして、単元構想の中で、課題を位置づける。また、子どもから生まれた疑問や、興味を持ったことなどを活かしながら、子どもが解決したくなる課題や問いを示す。その際、子どもにとって明確になっている課題（課題の焦点化）とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ出すことができる。 ・課題に対し、自分の考えを持つ。そして、それを伝えるためにノートに図や言葉で書こうとする。
<p>追究(25分)</p>	<p>仕掛ける</p>	<p>○新しい時代を切り開く資質・能力を高め、主体性のある日本人の育成を目指す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>かけがわ型スキルの6つの力を活用する授業をつくる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の子と自然に話し合っている。 ・友達の発言に自然とつばやいている。 ・意見を伝え合う。誰かの発言に付け足したり、反論したりする。 ・自分の言葉で説明したり、疑問を出し合ったりする。 ・集団追究の場において、自分の考えを進んで伝えたり、友達の考えをじっくり聞いて取り込もうとする。 ・誰かの発言を元に、つなげたり、新しく気づきひらめいたりするなどが起こる。そのことにより、対話や交流が広がる。 ・自分たちで課題や疑問に対する答えを検証するときに、互いに自分なりの意見を伝え合う。 ・子ども同士が説明したり、考えあったりする中で「あ、そうか…」「じゃあ、こういうこと?」「つまり…」「あ、分かった。」等のつばやきがよく出る。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid lightblue; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>・考えるための材料の吟味</p> </div> <div style="border: 1px solid lightblue; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>・学習形態の工夫 ・構造的な板書の活用 ・情報機器の活用</p> </div> </div>
<p>まとめ(10～15分)</p>	<p>確かめる</p>	<p>○児童一人一人が、本時の学習の成果を感じ、「学びの実感」をもつことができる。そのため、まとめやふりかえりで、子どもがどういことを書くことができればいいか明確にする。(評価規準の明確化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の終わりに、分かったかどうか練習問題を解いたり、自分の考えをまとめたりする時間の確保(ふりかえりの時間) ・新しい課題や、さらなる疑問をもつ。(またはそれを検証しようとする)

～ 全職員で 日々の授業の中で 授業改善に取り組もう ～

掛川市立原谷小学校

平成28年度 我が校のものがたり

5つの羅針盤



本校の子どもたちは、素直で明るく一生懸命取り組む子が多い。表現力も豊かである。この豊かな表現力を生かし、学習の構え、学力の基礎基本を身につけ、「こころざしをもち共に高め合う子」を目指していく。

第1の羅針盤



◎ 学びの構え

○主体的に学ぼうとする子を目指す

・授業像をつくる

原谷小の授業像『「〇〇したい」 いっぱいの授業をつくらう』

・学級の授業像を話し合い決める。

・「話す聴く」を基本にした教室のルール

第2の羅針盤



◎ 研修の充実

○「主体的に学び合う子」を目指す

・付けたい力を明確にした単元・学習活動の展開

・学び合いをしたくなる発問の工夫

第3の羅針盤



◎ 基礎学力の定着

○基礎学力の定着を目指す

・朝のスタディタイム（国語・算数のプリント学習）

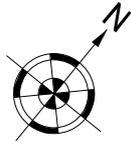
・チャレンジテスト

（6月・11月・1月の漢字・計算テスト）

・ステップアップタイム（金曜放課後学習）

・夏季チャレンジ学習（夏季休業の個別学習）

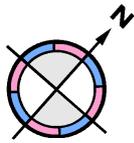
第4の羅針盤



◎読書活動の推進

- 読書好きな子を目指す
 - ・朝読書（火・水・木曜日）
 - ・読み聞かせ（火曜日）
 - ・読破賞（必読書を読破した児童を賞賛する）
 - ・あい読の推進（本校独自の読書日記）
 - ・図書集会（年2回実施）

第5の羅針盤



◎家庭・学校・地域の連携

- 原谷を大好きな子を目指す
 - ・地域体験学習
（3年お茶摘み・4年原野谷川調査
5年お米作り・6年あんり訪問）
 - ・学習ボランティア支援（ミシンボランティア等）
 - ・学習習慣の定着 ※「家庭学習の手引き」を参考に

〈目指す子どもの姿〉

- ・自分の目標（こころざし）をもってがんばるようになった。
- ・授業で自分の考えを発表したり、友だちの考えを聴けたりするようになった。
- ・漢字が書けるようになり、計算問題が解けるようになった。
- ・読書量が増え、本を読むことが好きになった。
- ・原谷小が大好きなり、「学校のためにがんばろう。」と思うようになった。



〈目指す教師の姿〉

知識・技能の習得と思考力・判断力などの育成のバランスを重視し、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養っていきたい。日々の授業の充実のために積極的に授業研究を行い、「チーム原谷」の学校体制で切磋琢磨していきたい。



掛川市立原田小学校

平成28年度 我が校のものがたり

1 本校がめざす「学力向上ものがたり」

学校教育目標

自ら考え みがき合う子

重点目標

とことん やりぬく子

研究主題

なるほど・わかったが実感できる子

研究主題

について

本校の児童は、学習に真面目に取り組むことができる。しかし、深く追究し、より高いものを求めていこうとする点に弱さがあり、学習の場でより深い力を付けきれない様子が見られる。

これからの時代を生きる子どもたちには、一人一人が自分の考えをもち、互いの考えを伝え合いながら共により高い価値をもつものを創り上げていく力を身に付けることが大切である。知識、技能の獲得はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら課題を見つけ、学び、判断し、行動することでよりよく問題解決する力の育成が求められている。

平成28年度は、児童が「なるほど・わかった」を実感し、教科の基礎的・基本的な知識を着実に身に付け、それを使って問題を解決していく思考力や判断力、表現力を育てていくことができる授業を実践していくべきであると考えた。

基礎基本の定着が図られるまで「とことん」繰り返す、よりよい解決まで「とことん」考えることを子どもに求めるとともに、教師も「とことん」子どもに対することが求められる。

基礎的、基本的な知識、技能を獲得する際の「なるほど・わかった」に加えて、さらに深く思考し、判断し、表現する中で、「なるほど・わかった」の言葉が子どもから発せられたときこそ本当に「なるほど・わかった」が実感できたときであると考え、本研修主題を設定する。

このような授業実践のための教師の研修の窓口教科を「国語科」とし、国語科で培った力を他教科へも生かしていけるようにすることをねらいとしていく。

【原田小学校がめざす姿】

なるほど・わかったが実感できるまで
とことん考える とことん話し合う とことん繰り返す
学びの姿

2 学力向上の具体的な取組

<授業改善の推進>

「押さえる」「仕掛ける」「確かめる（子どもの振り返り）」「つなげる（価値付け）の視点に沿った授業改善を推進し、子どもを中心に据えた楽しく分かる授業の創造に努める。

ア 小中9年間の系統性を押さえ、付きたい力を明確にした指導を目指す。

（ア）学習指導要領と教材とを照らし合わせ、指導の目標を具体的にし、目標、学習課題、評価の一体化を図る。

イ 学びの道筋を児童と共有した授業づくりをする。

（ア）言語活動を設定し、児童に目的意識をもたせた単元の構想をする。

（イ）単元の学習計画を子どもにもわかるようにし、見通しをもって学べるようにする。

（ウ）本時で付きたい力が付いたか、子どもによる振り返りを行う。

⇒**学習のまとめや活用の時間の確保**

（エ）学びの振り返りを生かした評価をする。⇒**学習課題は赤囲み、まとめは青囲み**

（オ）学びの経過と内容が表された板書に心がける。

（カ）学びのユニバーサルデザインの視点を授業に生かす。

ウ 読書時間の確保と質の向上を図る。

（ア）月2，3回の読み聞かせと週3回の読書時間を設定する。必読、推薦図書を選定し、良書を薦める。

<学習活動の工夫・充実>

学習の計画と見通し・問題解決・練り合いを大切にした授業づくりに努める。体験活動や小集団学習、ICTなどを授業の中に積極的に取り入れ、友だちと協同しながら、ひとりひとりの子どもが活躍できる授業づくりを行う。

・体験活動 ・小集団学習（ペア学習、グループワークなど） ・ICTの活用

<基礎・基本の定着>

漢字や語いなどの反復練習を日課に位置づけ、基礎学力の向上を図る。

（ア）週1回の朝のドリルタイム（漢字練習タイム）を設定する。

（イ）毎月曜日、30分間の学習習熟時間（とことんタイム）を設定する。

（ウ）年4回既習事項の定着を図る「とことんテスト」を行う。

（エ）「とことんテスト」「定着度調査」「全国学力学習状況調査」の結果を分析し、指導に生かす。

「はらだ家庭のものがたり」

学習ノートやよい学びの紹介、学級通信や参観会での情報発信、家庭学習の指導など、家庭への啓発・支援を図る。

学習の構えの確立

授業に向かう学習の構えを確立させ、主体的・意欲的に学ぶ子どもの姿を引き出す。

温かな人間関係を土台とした支持的風土を育む学級づくり

人間的ふれあいを感じる場づくり

共感的な人間関係を作り出す場づくり

自己決定をうながす場づくり

地域に生きることを感じる場づくり

掛川市立西郷小学校 平成28年度 我が校のものがたり

西郷小の子どもたち

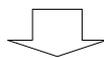
- 投げかけに素直に反応する。
- 目標を明確にすると、がんばる子が多い。
- 書く力が伸びてきている。書く習慣ができてきた。
- 語彙力を伸ばし、文章を正しく読み取る力をもっとつけたい。
- 主体的に学ぼうとする意欲をもっと高めたい。



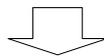
学校教育目標 「かがやけ! じっくり にこにこ とことん」

校内研修の充実と日常的な授業改善

○研修テーマ「読む力を付ける説明文の指導
～学年の系統性を明確にして～」



学年ごとの付けたい力を明らかにし、説明文の指導を通して、文章を読む力をのばす。



各单元ごと、付けたい力を明確にする。

児童の実態と系統性に配慮した学習計画を立てる。

カギとなる言葉や文、段落をしぼって、指導方法を考える。

1時間のねらいに迫る学習問題や展開を考える。

音読指導の充実をはかる。

ユニバーサルデザインの授業をすすめる。

重点目標 当たり前のことを、自分から

基礎基本の定着

音読タイム

- 朝の会の最初に声だしタイム
 - ・よい発声の仕方
 - ・はっきりした声の出し方
- 以上2点をねらいに全校で取り組んでいます。



話す・聴く・書く力

- 目指す力を教室に掲示し、意識付け
- 発達段階に応じて、子ども達の基礎的なレベルアップを日々の授業で図ります。



朝のドリル・かがやきタイム

- 火曜日朝の国語ドリル
 - 水曜日帰りの会前の算数プリント
- 反復練習することで、基礎的な内容が定着するように取り組みます。



チャレンジテスト

- 年3回長期休業前に、国語・算数の基礎基本の定着を見取り、その後の指導に生かしています。

家庭学習

- 「家庭学習の手引き」を配布
- ・めざす家庭学習時間
「学年×10分」と設定
- ・主な学習内容、保護者の支援について
低・中高学年に分けて提示

家庭学習の手引き

子どもたちの勉強... 集中して取り組もう!

1~3年	4年	5年	6年
30分	40分	50分	60分

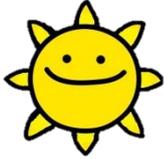
※お家の人へのおお願い
見直しと教直しをお願いします!

低学年	中高学年
基礎を固め、声を出して読む。	基礎を固め、声を出して読む。

重点目標 当たり前前のごとを、自分から

掛川市立倉真小学校

平成28年度 我が校のものがたり



教育目標

かがやく子

重点目標

自分から一歩！ みんなで大きな一歩！

かけがわ型
スキルNo.

金次郎プロジェクト

かけがわ型スキル

- 1 思考力
- 2 問題解決力
- 3 意思決定力
- 4 コミュニケーション力
- 5 情報の選択・活用力
- 6 地域や社会の中で生きるためのキャリア



児童会組織

- ・じまんのあいさつ
- ・縦割り活動
- ・子どもの思いを生かした特別活動

2



キャリア教育

- ・清掃活動
- ・金次郎ボランティア
- ・地域人材の活用

6

学級活動の充実

- ・人間関係づくりプログラム
- ・子ども主体の自治的活動

4



金次郎魂
(報徳精神)

心とからだの教育

- ・生活リズムの確立（家庭と連携）
- ・体力づくり（授業、業間、行事等）
- ・参加型人権学習
- ・学校保健委員会

2, 4, 6

道徳の充実

- ・「私たちの道徳」「かけがわ道徳」の活用
- ・「なるほどなっとく金次郎さん」
- ・道徳コーナーの設置

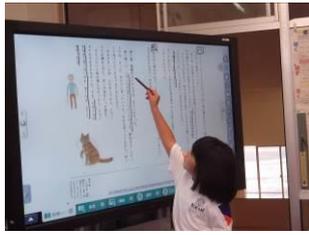
3



人間尊重の教育

- ・「生きる力＝自治力」の育成
- ・家庭、地域との連携
- ・特色ある学校づくり

4, 6



冀北プロジェクト

子ども主体の授業

- ・ 目指す授業像の掲示
- ・ 聞く、話す、書くの学習スキルの習得 (短冊の掲示、系統的な指導)

1, 2
3, 4

基礎基本 (ドリル学習)

- ・ 朝計、朝漢、朝文による基礎学力の積み上げ
- ・ 冀北テスト (年4回) による定着の確認
- ・ 長期休業中の補習学習 (寺子屋)
- ・ 全学年共通のノート指導、ノート展
→ 文を書くのが楽しい子の育成



音読指導

- ・ 詩の音読 (週3回)
- ・ 音読チャレンジ週間の設定 (毎月)

4

読書活動の充実

- ・ 朝読書 (週3回) → 読書記録を残す
- ・ 読み聞かせ (教師、ボランティア)
- ・ 身近な図書コーナーの設置 (2・3階)

1

冀北学習

- ・ 主体的な課題設定で倉真地区のよさを再発見
- ・ 「冀北発表会」で地域に発信

1, 2
3, 4
5, 6

研修の充実

- ・ 説明する力を身につけた子の育成
- ・ 子ども主体によるICT機器の効果的な活用
- ・ 少人数学習のよさを生かした授業
- ・ 学びのユニバーサルデザインを重視した授業

1, 2
3, 4
5

課題調査の分析

- ・ 学力調査結果の分析を基にした課題の検討
- ・ 授業改善 (押さえる、仕掛ける、確かめる)

1, 5

家庭学習支援

- ・ 「家庭学習の手引き」を基にした家庭と学校の共通実践
- ・ 倉真っ子チャレンジカードの活用 (生活習慣・進んで家庭学習)

6

掛川市立土方小学校

平成28年度 我が校のものがたり

土方小 「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花を咲かせよう！

土方小「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花＝



- 確かな学力（学習に係る基礎基本の定着）
- 自ら学ぶ学習意欲
- 課題解決に向けて粘り強く取り組む問題解決力

土方小では、「学習の意義がわかり、各学年の基礎的・基本的な学習内容と態度を定着させようとする積極的な学習参加と、互いに切磋琢磨して学習する共同体意識を持つ子」を目指す児童像の一つとして掲げています。

本校の我が校ものがたりでは、「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」を花に例え、花を咲かせるための成長過程「①土壌づくり・種蒔き ②芽吹き・成長 ③開花」をものがたりとして展開していきます。

①土壌づくりと種蒔きの期

土壌づくり <しっかりと根をはり、成長できる土壌をつくる>



一人一人が安心して学校生活を送り、自分の力を思い切り発揮できる環境をつくるのが育成の基盤（土壌）となります。そのために、支持的風土の醸成と居場所づくりを大切に学級経営に年間を通して心がけていきます。



「みんながしっかり話を聞いてくれるから、発表が好き。」
「自分の意見をみんなが大事にしてくれて、うれしいな。」
「みんなで落ち着いて学習ができるって気持ちがいい。」

種蒔き <「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花を咲かせよう>



「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」とは、どんな子なのか。
学級開きや授業開きで、出会いを大切にしつつ、1年後の具体的な姿を示し、イメージを子どもと教師が共有します。



「学年で学習したことができる・わかるようになりたい。」
「難しい問題でも、あきらめないでやりきる力を付けたい。」

②芽吹き・成長の期

芽が出た後、成長に必要なものは、「日光」と「水」です。植物の成長を促す「日光」は「日々の授業改善」、成長のために自ら吸収する「水」は「学習スキル」となります。

教師の授業改善によって、子どもたち一人一人が温かな日光を浴び、様々な機会を通して水（学習スキル）を吸収することで、「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花を咲かせる木は成長します。さらに、力強く成長するための適切な肥料（校内研修）と個に応じた支柱（地域や家庭のサポート）によって、その成長はより確かなものになります。

 <p>日光＜授業改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある授業づくり 「押さえる・仕掛ける・確かめる」 ○ユニバーサルデザイン 「焦点化」「視覚化」「個への対応」 「学習（見通し）黒板」の活用 ○授業過程の再構築 「追究」「まとめ」時間の十分な確保 ○アクティブラーニングの推進 	 <p>水＜学習スキル＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣づくり <ul style="list-style-type: none"> ・土方小学びのルール、約束 ・話す聞く書く名人表の活用 ○学びの基礎基本 <ul style="list-style-type: none"> ・朝ドリル学習（漢字計算） ・土方小日記（書く力） ・ノート展（ノート作り） ○学びの応用・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・生活科、総合的な学習の時間 	 <p>肥料＜校内研修の充実＞ 「わかった」「できた」があふれる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びのユニバーサルデザインを重視した授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫 ・教材教具の工夫 ・板書、ICTの活用 ○目的を持って交流を行う <ul style="list-style-type: none"> ・伝え合い ・話し合い ○言語活動の充実 ○学力調査の分析・改善
<p style="text-align: center;">支柱（地域・家庭のサポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">○読み聞かせボランティア（毎月2回） <li style="width: 50%;">○放課後学習教室（寺子屋） <li style="width: 50%;">○家庭学習の7か条（城東学園） <li style="width: 50%;">○学校図書館や大東図書館の活用 		

③開花の期

のびのび成長した木は、たっぷりの日光と必要な水、効果的な肥料と個に応じた支柱によって、自分の成長を実感し、その花を咲かせます。土方小の子どもたち一人一人が「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」となるよう全職員と家庭と地域が連携して、力を合わせて取り組みます。

平成29年度へ

来年度は、どんな花を咲かせようか。児童の実態や学力調査の結果分析をもとに全職員で夢を語り合います。

掛川市立佐東小学校

平成28年度 我が校のものがたり

本校では、昨年度の成果と課題を明確にし、子どもたちの確かな学力を身につけさせるために、次のような取組を実践していきます。

学びづくり部では、一年間「話す聴く」をベースに学習の基盤づくりに取り組みます。研修部では、どの児童も『「わかった」「できた」を実感できる授業づくり』を目指します。

学校教育目標

力の限り 挑戦する子

平成28年度 重点目標

つくろう 自分のじまん みんなのじまん

「付けたい4つの力」

人を大切にする力 自分の考えを持つ力
自分を表現する力 チャレンジする力

伝え合って、「できた」「わかった」の授業をみんなで作ろう！



杏
・
・
・
校内研修

授業づくりは学校づくり

<研修主題> 『主体的に学び、「できた」「わかった」を実感できる授業』
～問い(学習課題・学習問題)の工夫～

<重点> 児童の実態と付けたい力に沿った問い
児童が自力で追及していきける問いの工夫



授業改善の視点を意識した研修

「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」

授業組織力を身につける研修

教職員個々の特性を生かした授業（佐東の自主研）



焦点化

- ・付けたい力の明確化
- ・切り返し発問
- ・個のみとり

視覚化

- ・構造的な板書
- ・教材教具の精選
- ・掲示物教具の工夫

学びのユニバーサルデザインを基盤として

学びの土台づくり

出合い

磨き合い

讃え合い

学習の構えづくり

話す聴く力を高める

学びを生かし・まとめる

じっくり聴こう！

- 【聴く姿勢】
- ・相手の方を向いて聴く
- ・口を閉じ、黙って聴く
- 【聴き方】
- ・話の最後までしっかり聴き取る
- ・相手の言ったことを繰り返し返して言えるように聴き取る

発表しよう！

- 【考えを書く】
- ・板書・既習事項から
- ・教科書や資料から
- ・友達から
- 【発表する】
- ・みんなの方を向いて
- ・聴こえる声で最後まで
- ・聴き手を意識して
- ・簡潔に、結論→理由

まとめをしよう！

- 【学習のまとめを書く】
- ・キーワードを使って書く
- ・板書を手がかりに書く
- ・自分の言葉で書く
- 【学年のまとめ】
- ・復習
- ・家庭学習の取組
- ・次学年に向けて／見合い授業

学びの約束の徹底

学びの約束

- 一 学習用具を揃えます(筆箱・下敷き)
- 一 チャイム着席します
- 一 授業のあいさつを元気よく言います

聴いて反応しよう！

- 【反応する】
- ・うなずく
- ・「同じです」「似ています」
- ・自然な反応
- 【反応してつなぐ】
- ・友達の考えと
- ・既習事項と
- ・日常生活や体験と

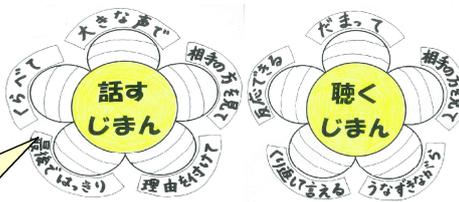


見せ合い授業

1つ上の学年の授業を見ます。発表の仕方や聴き方、反応の仕方などを学びます。そして、一年間の学びの足跡を振り返ります。

話し方・聴き方の定着

学級・個人で目標を設定し、ステージごと達成度を振り返ります。



基礎基本の定着

学びっ子タイム

- ・月曜日の放課後に算数を中心にして、補充学習を行い、基礎的な内容の定着を図る。(地域学習ボランティアによる)

学びづくり週間

毎月学びづくり週間を1週間設定し、重点指導項目に取り組み、達成度を数値化し掲示。

つらくろ『学び』じまん

年

学習態度、毎日学習の大事を徹底します。...

みんなの力をそとで、授業に活かして取り組もう！

◎基礎基本

【2年生】九九の計算、九九の暗算、九九の暗算、九九の暗算、九九の暗算

【3年生】九九の計算、九九の暗算、九九の暗算、九九の暗算、九九の暗算

【4年生】九九の計算、九九の暗算、九九の暗算、九九の暗算、九九の暗算

項目	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15
九九の計算					
九九の暗算					

支持的風土のある学校・学級づくり

自己肯定感を高める

- ・教師・友達によるほめ言葉のシャワー作戦「ほめシャワーの木」教室掲示
- ・じまんノートの活用

つながり合う仲間づくり

- ・全校学活による目標設定
- ・全校道徳により異学年の考えを知る
- ・じまんいっぱい佐東プロジェクト

掛川市立中小学校 平成28年度 我が校のものがたり

- ・ 中小では、重点目標の「自分を高める子」に向かっていくために、主体的に考える子を育てていきます。
- ・ 子どもたちの主体的に考える力を育てるために、「できた」「わかった」がたっぷりの授業づくりを進めます。
- ・ 単元を貫く言語活動の充実、課題からねらいに迫るための適切な教師の関わりにより、身につけさせたい力の定着を図ります。

「自分を高める子」 を育成するために

○課題からねらいに迫るために、適切な教師の関わりをもつ。
○単元を貫く言語活動の充実により、身につけさせたい力の定着を図る。

③ 振り返る

高める楽しさを感じさせる

- ・ 自分の学びの自覚（自分のよさ）と認め合い（友達のよさ）
- ・ 「できた」「わかった」の達成感の積み重ね
- ・ まとめと振り返りの方法の工夫



伝えたい
考えたい

① 押さえる

- ・ つけたい力の明確化、子どもとの共有化
- ・ 「学びたい」「考えたい」「伝えたい」という子どもにとって必要感のある学習問題や単元構想
- ・ 短時間で誰もが分かる学習問題提示の工夫
- ・ ねらいに迫るための言語活動の設定

— 主体的に考える子を目指して —

「できた」「わかった」がたっぷりの授業



できた
わかった

② 仕掛ける

子ども主体の話し合い活動

- ・ 補助発問、切り返しの吟味
- ・ 話し合う目的の明確化
- ・ 意図的に交流の場の設定
- ・ 思考の流れがわかる板書
- ・ 自分の考えを作る場と時間の設定と個への支援



学びたい

学習の構えづくり 安心感のある学習環境づくり

子どもの学びを支える力

学習の構えづくり

◆学習の構えづくり

- ・学習用具を揃える
- ・話し合いのルール作り
各学年の国語「いつも気をつけよう」の話し方、聞き方の実践

◆基礎学力向上プロジェクト

- ・スタディテスト（週3回）
- ・とことんテスト（長期休業前）の実施
- ・国語辞典の活用
- ・中小日記（週1回）、思い出作文（年10回）
- ・放課後学習支援（年8回）、すいすい教室（年2回）

◆読書生活の充実

- ・朝読書、読書週間、必読図書読破、読書の足跡

◆保護者と連携した家庭学習の充実

- ・お茶の間学び発表会
- ・城東学園家庭学習7か条の重点目標
「学年目標時間（10分×学年+10分）学習ができた」

◆学び発表会（1月）

- ・達成感・認め合う力の醸成
- ・思考・判断・表現力の育成

落ち着いた安心感のある学習環境づくり

◆中小しぐさ

- 1 大きな声であいさつをします。
- 2 友達を大切にされた呼び方をします。
- 3 正しい言葉遣いを身につけます。
- 4 校内は右側を歩きます。
- 5 「きれいだいすき」のそうじをします。

4つのステージで
重点的に指導

◆認め合う力を育てるキラリの花活動

- ・昼の放送、帰りの会での紹介、教室掲示
- ・友だちや自分のよさを振り返る道徳授業

◆キラリ賞

- ・学校全体での子どもたちのよさの賞揚も

◆スポーツタイムの充実

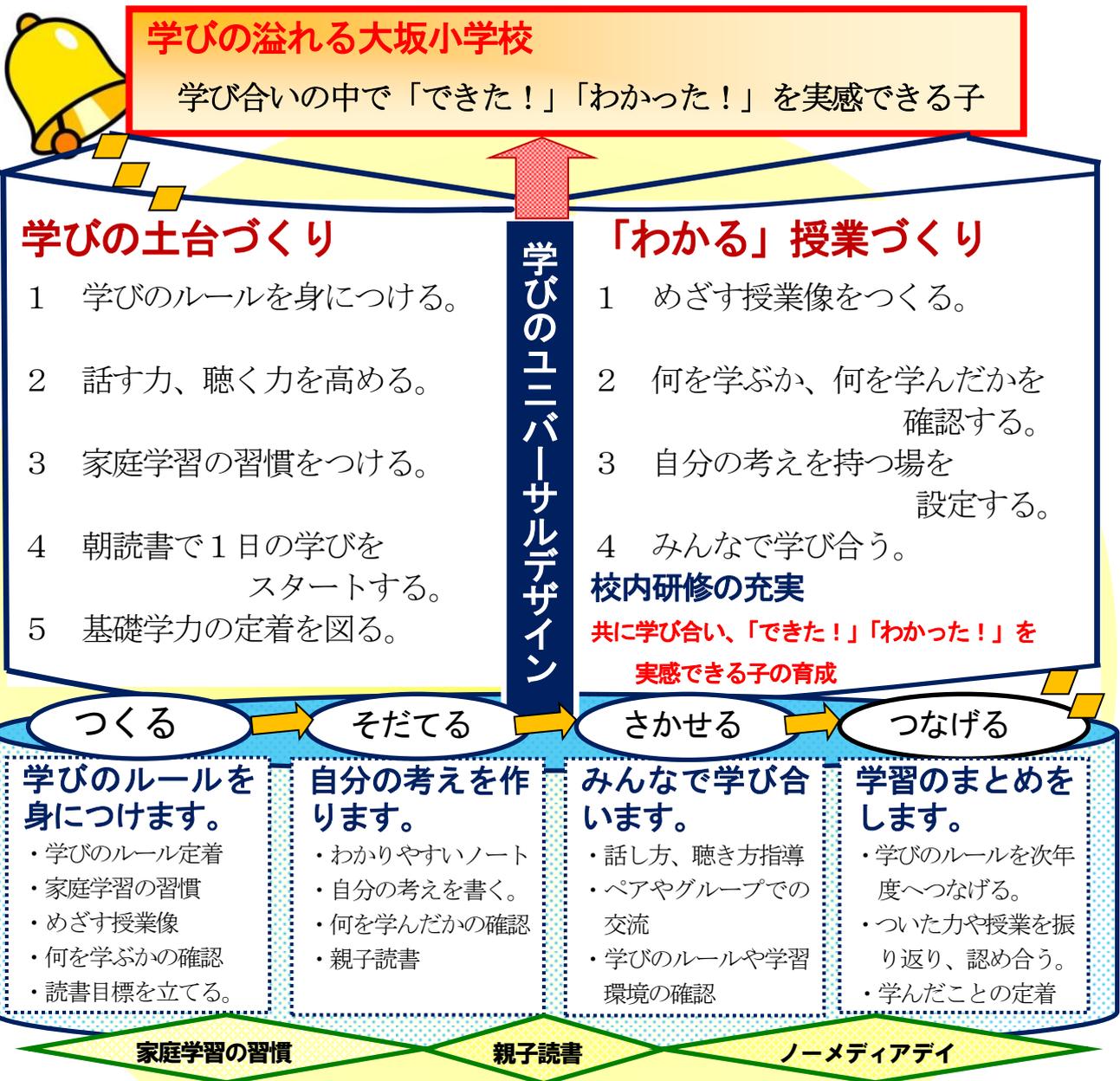
- ・ドッジボール大会（6月）
- ・リレー大会（毎月第4金曜日）
- ・たてわり班遊び（隔週水曜日）
- ・体力アップコンテスト8の字長縄大会（1月）

掛川市立大坂小学校

平成28年度 我が校のものがたり

学校教育目標「心の鐘をひびかせる子」に向かい、他と関わり合う中での個の確立を目指していきます。平成28年度は「さあ、やってみよう みんなといっしょに」を重点目標に、集団生活の中で、他と関わり合いながら、自分のもっている力に気づき、それを生かそうと努力する児童の育成に努めていきます。

「学びつくり」の取組では、「学び合いの中で『できた!』『わかった!』を実感できる子」の育成を目指します。全職員が、学びのユニバーサルデザインを意識し、①学びの土台づくり ②「高め合い」の授業づくりの両輪により確かな学力の育成を進めていきます。

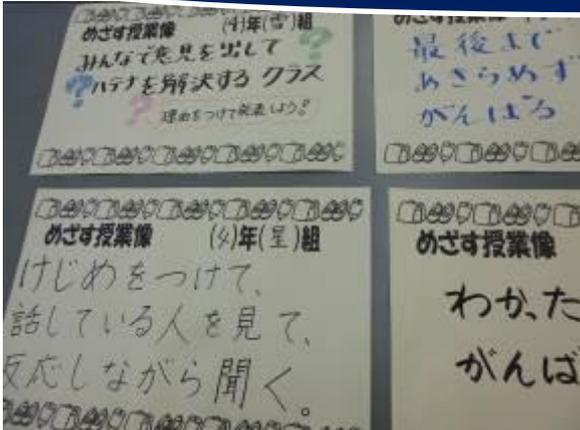


「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て5か条 ○学校公開 ○交流連携活動 ○学校評議員会・大坂小教育を語る会 ○地域素材の教材化

大坂小学校の学びのものがたりがはじまりました。

つくるステージは、学びのルールを身につけます。



各学級の「めざす授業像」決定！



筆箱の中身、筆箱の位置は…学習の構えをつくるために、学びのルールを一つずつ身につけます。

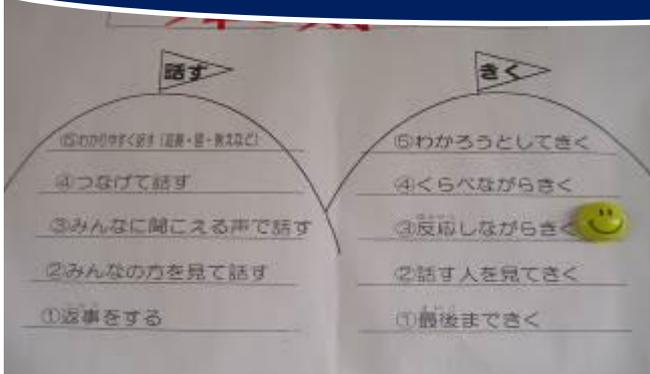
そだてるステージは、自分の考えを作ります。

「今日学習することは…」



わかりやすいノート作り
自分の考えを図や言葉で表します。

さかせるステージは、みんなで学び合います。



話す山・聴く山、レベルアップを目指します。



ペアやグループでの交流
自分の考えを作ったり深めたりします。

つなげるステージは、学習のまとめをします。

掛川市立千浜小学校

平成28年度 我が校のものがたり

三感（実感・感動・感謝）を大切にした教育活動を目指し、各つくり部で以下の取組を行う。

1 学びつくり部の取組

「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を視点とした授業改善

（1）授業改善

- ①実態の把握（押さえる）
- ・子どもの実態をつかむ（児童の振り返りなどから）

- ②目標とゴールを明確にした単元構想や1時間の授業の組立（仕掛ける）
- ・単元構想
 - ・実態に合った発問
 - ・学びのユニバーサルデザインを意識
 - ・表現の場、考えを書く場の位置付け

- ③思考を大切にされた板書や振り返り（確かめる）
- ・思考やまとめのヒントになる板書
 - ・振り返りの時間の確保と工夫

学ぶ楽しさが
実感できる授業を
展開し、確かな
学力を育てる

（2）基礎学力定着の支援

- ①伝える（表現する）指導・支援
- ・各学級で、「聴くステップ・話すステップ」「目指す授業」を掲示（学習コーナー）
 - ・朝活動を利用した音読練習

- ②読書の充実
- ・毎週月・木の朝読書、水曜の読み聞かせ
 - ・学年に応じた必読書の設定、毎週末の家庭での読書の推進
 - ・司書教諭と連携し、学校図書館を活用した授業の推進

- ③ドリルタイム・たしかめテスト
- ・毎週火・金の朝活動でドリル学習を設定
 - ・年間4回、基礎力を中心に活用も問うテストの実施

（3）家庭との連携

- ①家庭学習の方法についての支援
- ・家庭学習の手引きを配布し、家庭での学習習慣をつくる
 - ・週末読書、親子読書の推進
 - ・家庭学習時間の意識化（学年×10分+10分）

2 心づくり部の取組

価値ある自己決定、共感的な人間関係の育成

(1) 行事に燃え、 行事を通して感動体験

- ①学級での目標を設定
- ・どのような学級にしたいかを話し合い、学級の活動の拠り所となる目標を設定

②自分の目標の設定

- ・自らの目標を明確にした行事への取組
- ・各行事でめあて・振り返りのカードを活用
(運動会、水泳、干浜っ子種目、マラソン、長縄、縄跳び)

(2) あたたかな 人間関係づくり

- ①子どもの実態把握、
人間関係づくりプログラムの実施
- ・児童教育相談の実施
 - ・人間関係づくりプログラム、構成的エンカウンターの実践
→思いやりある人間関係の育成

②話し合い活動の充実

- ・よりよい学級にするための話し合い活動
→自治力の向上
- ・ペア活動の充実

③ペア活動の充実

- ・花壇活動やペア集会を通して、異年齢での交流をもつ

支持的風土の
ある学校・学級づく
りを通し、豊かで健
康な心身を育成する

(3) 地域との連携・道徳教育や防災教育の推進

①地域人材の活用

- ・花壇活動やクラブ活動でのボランティア指導者

②地域支援コーディネーターとの連携

- ・地域の方の教育活動への参加（生活科や家庭科への支援）

③教育活動全体で行う道徳教育

- ・花壇活動 ・かけがわ道徳 ・地域の偉人から学ぶ

④防災教育の推進

- ・様々な想定での避難訓練（年4回）
- ・外部講師を招聘しての防災講座
- ・防災の視点を取り入れた仲よし学校の実施

掛川市立横須賀小学校 平成28年度 我が校のものがたり

笑顔 夢 感動

わかった！できた！

<学 び>

- 1 基礎基本の定着
 - ・ T T 授業や少人数授業
 - ・ めざせ！聴き名人・話し名人
 - ・ ノート指導の徹底
 - ・ 効果的なドリル学習
 - ・ 学年末総まとめテスト
- 2 言語活動の充実
 - ・ 自分の言葉でまとめる
 - ・ 横須賀スタイル
(授業過程)
 - ・ 外国語活動を通じたコミュニケーション能力の育成
- 3 学校図書館教育の推進
 - ・ 司書教諭や学校司書との T T 授業
 - ・ 読書タイムや読み聞かせ

自己有用感・学力向上

<心>

- 1 横小しぐさの徹底
 - ・ 人間関係作り
 - ・ 互いに認め合い温かな心を培う学級作り
- 2 キラリを見つけ、認め、広めていく
 - ・ 個人のキラリ
 - ・ 学級のキラリ
 - ・ 学校のキラリ
- 3 学校賞（横小しぐさキラリ賞）
 - ・ あいさつ

<家庭・地域>

- 1 大須賀中学校区学園化構想研究会「若つつじ学園子育て十か条」の広報
 - ・ リーフレット作成
 - ・ お便りや懇談会で話題にあげる
- 2 家庭学習の習慣化
 - ・ eライブラリーの活用
- 3 ネットルールの7つの約束
 - ・ 親子活動で情報モラル教育
- 4 実態アンケート
 - ・ 実態を把握、分析し、次に生かしていく

1 基礎基本の定着

(1) 少人数指導、ティームティーチングの充実

3年生から6年生までの算数で2C3Tの少人数指導を行う。一人一人にあったきめ細やかな指導を心がける。2年生では、国語・算数でTT指導を行う。それにより、低学年での基礎基本の徹底を図る。

(2) ノート指導の徹底

「ノートの使い方のやくそく」をもとに、ノート指導の基本的事項を全校共通理解のもと指導する。学年や学級でノートの見合いをし、良いノートの使い方を広める。

(3) 効果的なドリル学習

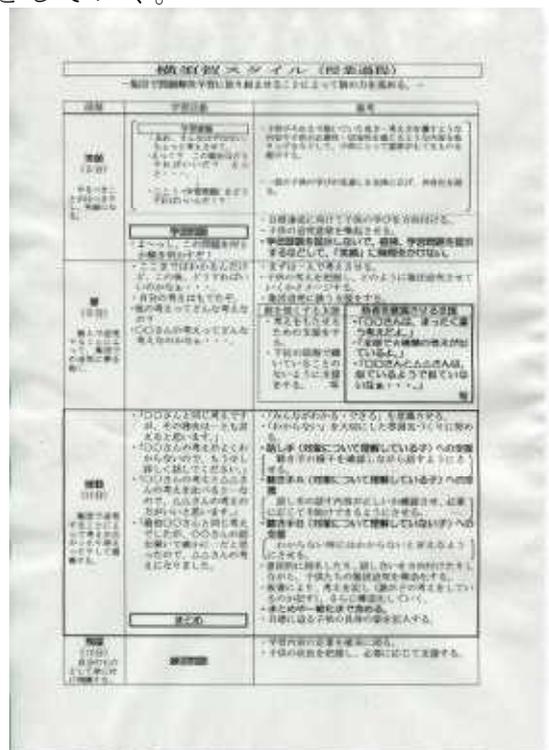
毎週金曜日の朝活動を「ドリルタイム」と設定し、国語や算数などのドリルやプリントなどを使って、基礎基本の定着を図る。授業や家庭学習でもドリルやプリントなどで繰り返し復習を行う。

(4) めざせ！聴き名人・話し名人

聴き方・話し方の基本形を各教室に掲示し、上手な聴き方・話し方の基本形として全校同一歩調で指導し、言語活動の基本としていく。

2 言語活動の充実

授業の最後に本時で学習したことを教科言語を使って、自分の言葉でまとめるための時間を十分にとるようにする。そのことを意識した横須賀スタイル（授業過程）を示し、かけがわ型スキルを意識した言語活動重視の授業展開を行う。集団追究における子どもたちに対する教師の意図的な働きかけを研究し、子どもたち自身が主体的に集団追究に取り組めるような展開をしていく。また、外国語活動を通して、コミュニケーション能力の育成に努める。



3 学校図書館教育の推進

司書教諭や学校司書とのティームティーチングを各学年で積極的に取り入れ、学校図書館を活用した授業を推進する。また、保護者ボランティアによる読み聞かせ、図書館の環境づくりなど、読書に親しむ活動を積極的に行う。火、水、木曜日の朝の10分間を全校「読書タイム」と位置づけ読書の日常化を図る。

項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度目標
年間貸し出し冊数	約 34,066 冊	30,000 冊



また、読書量だけではなく、良書を紹介していくなど読書の質を高めるための取組に力を入れていく。

掛川市立大淵小学校

平成28年度 我が校のものがたり

行ってらっしゃい！



おはよう！



1 わくわくタイムでミニ鍛錬

○漢字・計算・読解力の向上を目的に実施

- ・月、木、金曜日の朝 5分
- ・漢字5問テスト（月曜日）
- ・読解、計算のドリル学習（木、金曜日）



- ・漢字が書けるようになった。
- ・主語、述語、修飾語がわかった。
- ・計算問題がとけた。

2 いきいきわくわく楽しい授業

○大きな思いを伝える子

- ・交流、相談の場で発言する。
- ・自分たちで楽しい授業をつくる。

地域で生きる力
体験学習

○研修の重点

- ・子どもの問いを生かす発問。
- ・相談、交流の場の設定。
- ・子どもの思考に沿った単元構想。

- ・〇〇やってみよう。
- ・〇〇をやってみよう。

- ・それいいね。
- ・まだまだもうちょっといける。

- ・みんなでやって よかったね。
- ・つぎは どうしようかな。

○開発的生徒指導

- ・やさしいパワーであたたかな空気をつくる。
- ・気持ちのよい1日の生活をつくる。



3 放課後学習支援 寺子屋タイム

○子どもの学習支援を目的に実施

- ・金曜日の放課後
- ・補充学習、テスト直し、学びの見取り等

- ・～ができなかったけどできたぞ。
- ・～がわかったよ。
- ・宿題のここが難しかったな、でもわかってよかったな。



4 できる喜びを実感できるマスターテスト

- 基本の定着を目的に実施(6月、11月、2月)
- ・学習した範囲の漢字、算数の基礎を出題

- ・合格目指してがんばるぞ。
- ・1回目はわからなかったけど、2回目はわかったよ。



5 心の栄養「読書活動」

- ・朝読書の実施（わくわくタイム終了後）
- ・読み聞かせの実施（毎週火曜日）
- ・読書の日（毎月23日）・・・本を持ち帰り、親子で本に親しむ
- ・図書ボランティアの活動
- ・各学年「大測小の30冊」（その学年で是非読ませたい本）の読破

保護者の協力

- ・読書を通じて親子の会話を広げる
- ・教育相談
(いつでもどこでも)



- ・読書は自分の想像の世界が創れて楽しいよ。
- ・読み聞かせが楽しみ。だって、お話の世界に入れるから。

今日も楽しい1日
だった



どんどん伸びるぞ

- ・安心して勉強することができるよ。
- ・困ったとき支えてくれる仲間がいるよ。
- ・みんなでのばしていきたい。
- ・みんなといっしょに考えてみたい。

かがやく 大松の子

中 学 校

掛川市立栄川中学校

平成28年度 我が校のものがたり

生徒の実態

よい点

1. まじめな生徒が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。
2. 家庭学習も目的をもって取り組むことができ、定着度の高い生徒もいる。

課題

1. 自分の意見をもっていても、それを表現しようとする態度や、聞き手を意識した表現に課題がある。

そこで、栄川中学校では、子どもたちに確かな学力を身に付けさせ、意欲的に表現できる生徒の育成のために、これまで進めてきた栄川中学校区幼・小・中一貫研修や我が校の生徒の実態に合った研修をもとに、以下のことに取り組む。



栄川中学校の学力向上を支える「3本の矢」

じっくり考え表現できる子

1本目

～基礎基本の定着のもとに 学びあう生徒の育成～

- 学びのユニバーサルデザイン（焦点化・視覚化・共有化）の考え方を取り入れた授業を構成し、「わかる・できた」という喜びを感じさせる。特に、焦点化・視覚化という観点から、各授業において、学習課題や学習問題を赤枠で囲む。そして、課題や問題解決に取り組む時間を確保し、意見交換の時間を取り意見の共有化を図ることで、表現する力を養っていく。最後にまとめの時間をしっかりと確保し、まとめは青枠で囲むことを全校の統一事項として授業を構成していく。
- 付けたい力を明確にし、その育成を目指した言語活動を充実させる。特に、各授業において、学習指導要領との関連を明確にし、言語活動を付けたい力を付けるための「仕掛け」としてとらえ、また、話し方聞き方スキルを設定し、発達段階に応じたコミュニケーション力・表現力の育成を図る。
- 「栄中三原則」を意識し、規律ある授業をつくり、学習環境を整える。

栄中三原則

- (1) 学習道具を準備して、2分前着席
- (2) 授業に集中。積極的な反応、発言、活動
- (3) 先生や友達の話は、顔を上げ黙って聴く。

2本目

基礎基本を定着させるための支援と手立て

- 定期テスト前1週間に学習相談の時間を設定し、個への対応をする。
- 生徒全員にやればできるという成就感を味わわせ、さらに基礎学力の定着を図るために、定期テストの2週間後等に基礎学力テスト（年5回・5教科）を実施する。

3本目

学校と家庭、学校と地域との連携

- 栄川中学校区幼・小・中一貫研修『家庭学習の手引き』を中心とした家庭学習の充実を、家庭と連携して推し進めていく。
 - (1) 生活リズムを安定させよう。
 - ① 時刻を決めて学習に取り組む。(中学生：1日2時間以上)
 - (2) 学習環境を整えよう。
 - ① 部屋の中、机の上を片付け、学習に集中できるようにする。
 - ② 物を食べながら学習をしない。
 - ③ テレビや音楽、携帯電話の電源は切って学習する。
 - (3) 見届けと励ましをしよう。
 - ① 学習の様子を見る。(学習が終わったら声をかける。)
 - ② やることをきちんとやったときにはほめる。
 - (4) 「栄川中学校区子育て十ヶ条」を、年間を通じて実践しよう。
 - ① 大人から笑顔であいさつ、あいさつは「だいじ」の精神で。
だ・・・だれにでも
い・・・いつでも
じ・・・自分から
 - ② テレビ、ゲーム、メールに御用心！たまにはノーメディアデー
 - ③ 子どもも家族の一員・・・できることからお手伝い
 - ④ 大人が手本を示そう社会のルール
 - ⑤ 「ありがとう」、「ごめんなさい」で温かな家庭づくり
 - ⑥ 寝る前に読もう聴かそう本一冊
 - ⑦ 気づこう子どものサイン！かけよう大人の優しいひと声
 - ⑧ 早寝、早起き、家族そろって「朝ご飯」
 - ⑨ しっかりほめて きちんとしかる
 - ⑩ 教えよう一つの命の大切さ



掛川市立東中学校

平成28年度 我が校のものがたり



東中生の姿（現状）

- 不登校（傾向）生徒が大きく減少し、不登校0実現に向けての歩みを進めている。
- 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
- あいさつ、服装・身だしなみが向上し、まじめな態度で授業に取り組んでいる。
- 学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
- 交通ルール、マナーの向上に、より一層努力をさせたい。



本校生徒の目指す姿（さらなる高みを目指して）

- 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」

平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、自分の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは校歌を歌いながら宣言します。

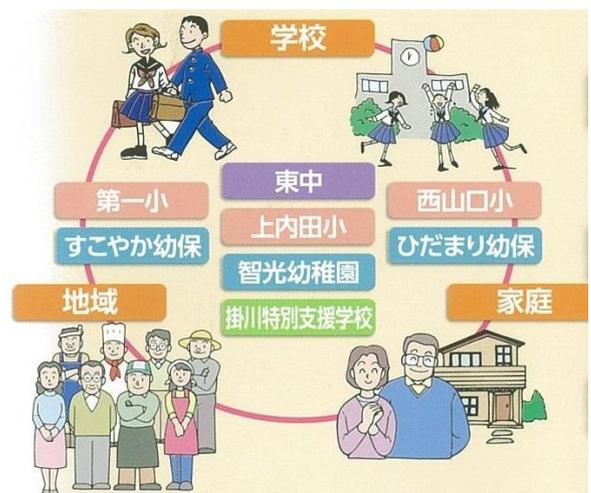
- 地域と共にある学校

中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人一人を育てます。

- 学び合う力の育成

グローバル社会に行く抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。

校歌	
三 天主の台下に 校旗は薫れり 愛なり 敬なり 修めよ 我が友 こぞれり この丘	二 葛の葉しげれる 輝く穂の波 天地の創造 磨けよ 我が友 こぞれり この丘
一 東海ひいずる 山脈めぐりて 平和と自主こそ 進めよ 我が友 こぞれり この丘	沃野のひろごり あふるる茶の香と この身にうけたり 文化は育てむ 桔梗は匂えり
真白き富士ヶ嶺 地平に到れり 揺がぬ誓いぞ さかしき道をも 桔梗は匂えり	
作詞 窪野桂 作曲 奥村雄夫 （昭和二十八年二月制定）	



キーワードは「学び合い」

全ての教育活動で、「学び合い」を基本に取り組みます。また、取組を継続的に検証し、教育活動の改善につなげていきます。

転

東中アクションプラン

- 仲間と高め合う「学び合い」の授業
- 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- 標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入

仲間と高め合う 学び合いの授業

「話しかけやすい」「顔を見て話せる」「気持ちが変わる」
「みんなで協力して授業ができる」等、
仲間とつくり上げる授業をめざしています。

お互いの顔が見え、協力して授業ができるコの字型座席
やる気を共有し、考えを深め合う小集団
先生が的確なアドバイスをくれます。
女子も興味津々。謎の目玉を解剖中。
ホワイトボードのまとめを見ながら討議。
英語ではALTエイドリアン先生と楽しくコミュニケーション

授業改善について専門家（日本大学准教授）の指導を受けて進めます。

また、授業改善が確実に成果に結びついているか、毎年実施する学力調査、生徒アンケート等の経年比較を基に、第三者機関（静岡大学准教授）に評価を依頼します。



総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川市」をテーマとして、地域や学校を知り、その上で地域や学校に関わる諸問題について考え、解決していく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

1年生「掛川を知る」
2年生「掛川で働く」
3年生「掛川について考える」

フォーラムでは地域のいろいろな施設を訪問しました。
さまざまな職業について学ぶ職業講話の講師の皆様
掛川の未来について講話を聞きました。

結

仲間との関わり合いの中で、どの生徒も「学びの充実」を実感する

最近、授業が楽しいです。話し合いも活発だし、発表も多いし、席がコの字だからわからないところを聞くことができるので良いです。また、4人グループ（学び合い班）で話し合っていると、わからないところがすぐに聞けるし、自分の意見に自信もつくので発表がしやすいです。聞く人も大きく反応してくれる人が増えてきたので、授業の雰囲気がとても良いなと思いました。

— 生徒の声より —

掛川市立西中学校

平成28年度 我が校のものがたり

変化の激しい21世紀の社会では、知識の習得ばかりでなく、実社会で活用できる能力(汎用的能力)の育成が求められている。少子高齢化、知識基盤社会、グローバル化の進展等、多様化する社会で生きのびることができる資質と能力を育てていくことが必要である。

重点目標

夢

自立

共生



本校が目指す生徒像～育てたい力～

西中学校区に生まれ育った西中生の良さをさらに伸ばすとともに、その土台となる3つの力を教育活動全体を通じて育てていく。

【夢に向かう生徒】

- ・自らの目標に向かって、主体的、積極的に取り組む生徒
- ・自分らしさを発揮し、仲間と協力をして、より高い価値を目指すことができる生徒

【自立した生徒】

- ・自ら学び、自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒
- ・自らの言動に責任をもち、我慢強く最後までやり遂げる生徒

【共生できる生徒】

- ・他を思いやり、美しいものに感動し、自他の生命を大切にする生徒
- ・多様な生き方を認め、他者のよさに気づくことができる生徒



校訓 「知性」「健康」「協力」
 学校教育目標 「心豊かに 磨き合う仲間」

確かな学力の育成

生徒が活躍する授業づくり

教育活動

- 一人一人を大切にした授業づくり
 - ・特別支援教育(学びのエンパワメントデザイン)、個別指導、少集団学習
- 夢を実現する確かな学力の定着
 - ・基礎・基本の徹底
 - ・思考力・判断力・表現力の育成
 - ・学習規律の徹底(ルール、マナー、姿勢等)
 - ・朝読書の充実、図書環境の整備
 - ・家庭学習の充実
- 達成感の味わえる授業づくり
 - ・学習課題の明確化
 - ・課題設定、板書の工夫
 - ・具体物の活用
 - ・まとめの時間の設定
- 道徳の時間の充実

評価指標

- ◇授業に意欲的に取り組んだと答える生徒 92%以上
- ◇授業が分かりやすいと答える生徒 92%以上
- ◇家庭学習に継続的に取り組めた生徒 85%以上

重点目標

夢・自立・共生

社会性・豊かな感性の育成

元気が出る学級、学校づくり

教育活動

- 人間尊重を基盤とし、自分に自信を持ち、夢に向かってよりよく生きようとする力を育む
- 基本的な生活ルール、マナーの向上
 - ・あいさつ、言葉遣い、規範意識の向上
- 一人一人に居場所があり、仲間を大切にした安全・安心な生活環境づくり
 - ・命を守る教育(いじめ追放、不登校ゼロ、交通ルールマナーの徹底、防災教育等)
 - ・コミュニケーション能力の向上
- 生徒の主体性を重視した活気ある諸活動
 - ・感動ある行事活動、生徒会活動、部活動
- 道徳教育の充実
 - ・横の連携・縦の接続を意識した道徳教育
- 夢を育む教育(キャリア教育)の推進
 - ・地域の財を生かした教育の推進

評価指標

- ◇学校、学級が楽しいと答える生徒 95%以上
- ◇行事、生徒会活動、部活動等に意欲的に取り組んだ生徒 95%以上
- ◇ルール、マナーを守り、気持ちの良いあいさつができる生徒 95%以上

学びの充実～授業改善からのアプローチ～

研修テーマ『学びのユニバーサルデザイン ～一人一人が学びの主役～』を意識し、確かな学力の育成を目指す。学ぶ喜びや仲間と共に学習することの楽しさを体感できる「生徒が活躍する授業づくり」「達成感の味わえる授業づくり」を進めいく。



- ☆「何を教えるか」という知識の質や量の改善と「どのように学ぶか」という学びの質や深まりの重視
- ☆探究的な学習や共同的な学習を取り入れた授業
- ☆暗記再生型の授業から思考発信型の授業



【本校の具体的な取組】

- ① 一人一人を大切にしたい授業
 - ・特別支援教育（学びのユニバーサルデザイン）、個別指導、少人数学習等
- ② 夢を実現する確かな学力の定着
 - ・基礎基本の徹底、思考力、判断力、表現力の育成
 - ・学習規律の徹底（授業ルール、マナー、姿勢等）
- ③ 達成感の味わえる授業づくり
 - ・学習問題の明確化



掛西学園からのアプローチ（4園4校の連携）

- ① 生徒の学習ルール
 - ・友だちの方を向いて、最後まで聞くことができるようにさせる。聞くときは聞く、書くときは書く。
- ② 生活のルール
 - ・あいさつが「だいじ」、そうじは「だいじ」、いじめは「ゆるさない」

掛西学園 教師の共通実践項目

- 1 学習の流れがわかりやすい板書（掲示）をつくる
学習の振り返りがわかる板書（掲示）をつくる
- 2 生徒の発言を大切に聞く
「目を見る」「思いを受け止める」「最後まで聞く」
- 3 主活動、授業の中でどどんほめる



地域に根ざした夢ある学校づくり

学校・地域・保護者が一体となって子どもを育成

- ・地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動（読み聞かせ、図書ボランティア、環境整備）
- ・生徒が積極的に参加（防災訓練、リサイクル活動、公民館の清掃等）
- ・「あいさつでつながろう運動」「いじめ追放宣言」を地域へ広げる。
- ・吹奏楽部、美術部作品、書道作品等の出展
- ・防災教育「手当て学」を地域防災訓練で実施
- ・近隣高校との共同企画（イングリッシュキャンプ、わくわく実験教室）の開催



掛川市立原野谷中学校

平成28年度 我が校のものがたり

原野谷の里は、四季折々の美しい自然と世代を越えた人々の温かな心に彩られています。原野谷っ子は、純朴で、何事にも熱心に取り組めます。地域でも校内でも、元気なあいさつ、さわやかなあいさつが交わされます。学校の規模は小さいですが、仲間同士、気心が通じているよさがあります。一方、人間関係で悩みをもっている生徒も少なくありません。言われたことはできるのですが、自分で考えて行動すること、自分の考えを相手に伝えることを苦手としています。そんな原野谷っ子が、「心ゆたかに」「りりしく・たくましく・あたたかく」成長することを我が校は目指しています。

校訓「心ゆたかに」
学校教育目標「夢・汗・感動」
重点目標「りりしく・たくましく・あたたかく」

校訓の「心ゆたかに」は、自己中心的になりがちな心を戒め、人の痛みを感じる思いやりの心、礼節を重んじる心をもつこと。こころざしは高く、社会のために役立とうと、自己を磨き、汗を流すことの尊さを諭している言葉です。

この「心ゆたかに」を生徒の姿としてとらえると「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」となります。我が校に伝わる古文書には「夢は自己を磨き高める目標である。実現のために努力を惜しまず、感動へとつなげ、夢・汗・感動、この一連の体験の中で自己を見つめる。こうした体験を重ねながら、生き方を高め、将来の夢やこころざしを育む」と書かれており、昔から原野谷の里の子供達（原野谷っ子）が目指した姿なのです。



「りりしく・たくましく・あたたかく」は、原野谷っ子の目指す姿を飾る言葉です。

「りりしい原野谷っ子」は、「いじめはしない させない 許さない」正しい心をもっています。また、当たり前なのが自然にできる、人としての生活習慣を身につけています。

「たくまい原野谷っ子」は、心と体の健康づくりと体力づくりを図り、課題にねばり強く取り組む思考力・判断力・表現力を身につけ、たくましく生き抜く力をもっています。

「あたたかい原野谷っ子」は、人のために役に立とうとするこころざしのもと、誰にでもやさしく接することができる、あたたかい心をもっています。

「りりしく・たくましく・あたたかく」は互いに連動している飾り言葉です。「りりしい原野谷っ子」を育てるためには、「たくましい原野谷っ子」、「あたたかい原野谷っ子」も同時に目指さなければならないのです。「確かな学力」を身に付けるためには、その土台となる「健全な心」と「健康な体」が必要です。我が校では、生徒、保護者、教職員が互いに連携し、原野谷学園の皆様力を借りながら、原野谷っ子の心と体を育て、原野谷っ子の学力向上を目指します。

全国学力・学習状況調査では、日常生活と学力の関連性が指摘されています。読書の習慣や家庭における手伝いを行う割合が高ければ高いほど、学力調査の結果が良くなると言われています。〈学力の高い子 掛川の法則〉の分析結果からも、規則正しい生活習慣や家庭学習の充実が学力と関連していることが報告されています。調査の結果から、原野谷っ子は、言語活動や読解力の分野を苦手としていることも明らかになりました。家庭学習の状況も授業の予習を行っている割合が少なく、休日の学習時間も少ないことも明らかとなっています。

これらのことから、学力向上に向けた取組の重点をそれぞれ『学習の取組3ヶ条』『授

業改善3ヶ条』『家庭環境力3ヶ条』にまとめました。それを生徒・保護者・教職員に提示し、共通理解をしながら取り組むこととしたのです。またキャリア教育、道徳教育、人権教育、防災学習にも継続して力を入れ、原野谷っ子の学力向上を目指していきます。

1 取組の重点

(1) 『学習の取組3ヶ条』…当たり前前のことが自然にできる心や態度を育てる

- ① 1分前には着席し、開始時刻に授業を始める
- ② 忘れ物をしない(授業の用具・提出物)
- ③ 人の話を聞き、積極的に活動(反応)する

(2) 『授業改善3ヶ条』…教職員が取り組む授業改善の柱を明確にする

- ① 生徒の主体的な問い(学習問題)を生み出す工夫
- ② 思考や表現のための手立ての工夫
- ③ 自分の言葉でまとめたことを活用・評価する場面の設定

(3) 『家庭環境力3ヶ条』…規則正しい生活習慣や家庭学習の充実を目指す

- ① 早寝・早起き・朝ご飯
- ② 毎日2時間以上の家庭学習をやり遂げる 家庭環境をつくる
- ③ 家庭の一員として仕事をもつ

2 その他の取組

- (1) 数学塾…数学の基礎学力の定着に取り組む
- (2) 朝読書…毎朝10分集中して読書を行い、「読む」ことの習慣化に取り組む
- (3) 1分間スピーチ…「自分の考えをまとめる力」「話す力」「聞く力」を育てる
- (4) 道徳教育・環境教育の充実
- (5) キャリア教育・防災教育の充実
- (6) 人間関係づくり…小規模校の特性を生かした縦割り集団の活動・交流

我が校には、「清麗の庭」と「清麗の鐘」があります。「清麗の庭」は平成元年に、「清麗の鐘」は平成6年に造られました。「清麗」とは、「学校生活が清く美しい状態であること、そして一人一人が希望をもつこと」を願ってつけられた名前です。朝と夕には美しい鐘の音が校庭に響きわたります。この鐘の音により原野谷っ子は心を落ちつかせ、今の自分を見つめ、未来の自分を思い描くのです。

この鐘は、原野谷っ子の夢や希望のシンボルとなっています。正面の門は未来への入り口を、階段状に積み上げられたレンガの塔は、人生の階段をイメージしています。塔の上に突き出た部分はこれから切り拓いていく道での様々な障害を表しています。未来へ羽ばたく原野谷っ子に、人生の中で出会うであろう幾多もの困難を乗り越える強い力を身につけるよう願いが込められているのです。この「清麗の鐘」が永久に清く美しい鐘の音を響かせて、原野谷っ子の心に潤いや夢を与えていくことでしょう。



このように、心を育てる取り組み、学力の向上を目指した取り組みを通して、原野谷っ子に「凜とした心」と「確かな学力」を身につけることができると考えています。授業の中で、「学びのユニバーサルデザイン」を意識し、原野谷っ子の学びを充実させ、わかりやすい授業を行います。また、「かけがわ道徳」の授業にも全教員で取り組みます。

「凜とした心」の土台の上に「確かな学力」を築き上げること、原野谷っ子に夢やこころざしを育み、それを実現させることのできる「力」を身につけることを目指すことにより、「我が校のものがたり」が「原野谷っ子一人一人のものがたり」になっていくのです。

掛川市立桜が丘中学校



平成28年度 我が校のものがたり

確かな学力の育成

○授業改善の視点（静岡県教育委員会）

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。・・・「押さえる」
- 2 付けたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける。・・・「仕掛ける」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。・・・「確かめる」

○かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示

○中学校区学園化構想（桜が丘学園）

- ・家庭・地域等との連携を強化し、開かれた学校の一層の推進を図る。
- ・「すこやか子育て10ヶ条」の活用
- ・「桜が丘学園学習のてびき」の活用

学びの実感を積み重ねる「ものがたり」

○達成感の味わえる授業づくり

- ・学習課題の明確化
- ・課題設定の工夫
- ・具体物の活用
- ・板書の工夫
- ・まとめ時間の設定
- ・授業評価による授業改善

○確かな学力の定着

- ・基礎・基本の徹底
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・家庭学習の充実
- ・朝読書の充実、図書環境の整備
- ・補充学習により学習の継続性を図る

○学習指導

- ・授業5原則の意識化
- ・基礎学習の実施
漢字・数学・英語の1Pノート
- ・チャレンジ学習（数学、英語の基礎学力テスト）の実施

生徒が活躍する授業づくり

〈 桜が丘中学校研修テーマ 〉 3年計画の1年目

生徒が主体的に取り組む授業づくり

～考えを深める手立ての工夫～

（考えを深めるために）

- ◎考えるための材料（資料、道具、教材など）の工夫
- ◎考える時間の確保
- ◎対話場面の設定
（課題や問いに沿って考えが広がったり深まったりする言葉のやりとり、気づきのある言葉のやりとり）
- ◎学び方の工夫
例：思考ツール、ジグソー学習、考えの可視化 など

1 確かな学力の育成のために

(1) 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえる

学習指導要領を読み込み、付けたい力を明確にして授業を構想する。学習指導要領に示されている目標や内容を確認し、付けたい力（単元(題材等)又は本時の目標)が明確な授業になれば、学習課題や発問、板書なども充実し、授業のまとめや確認の時間も有効に活用されると考える。生徒には授業の目標はもちろん、単元の進め方や1時間の展開の見通しをもたせることで、安心して授業に取り組める体制をつくる。

(2) 効果的な手立てを仕掛ける

付けたい力をもとに言語活動の「目的」「内容」「形態」「方法(時間や役割)」等を検討し、より効果的な活動を設定する。思考力・判断力・表現力を育むために、読み手や聞き手を意識して説明する場の設定を意図的に行い、根拠をもって伝えることができる力を育てていきたい。言語活動を有効に活用し、根拠に基づいて自分の考えを書く活動を位置づける。

(3) 学習内容の理解を確かめる場の設定

生徒が何を学び、何を身に付けることができたかを自分自身で自覚できるようにする。授業の終末に身に付けた力を発揮できるかを確かめる時間や場を設定する。1時間の授業を振り返ったり、単元の内容を振り返ったりする。また、単元の終末には練習問題やテストで確かめる。

(4) 生徒に学習の仕方を指導する

「効果的な勉強方法はどんな方法なのか。」に答えられるよう、学年部や教科群で検討し、生徒に指導する機会をつくる。校内研修で参考書の使い方や勉強時間の目安、いつ、何を学ぶべきかをより具体的に詳しく研修する機会を設けて「勉強しなさい。」から「こうやって勉強したほうがいいよ。」という具体的なアドバイスを与えられるようにする。授業中やテスト前に教科担任からはもちろん全職員で、生徒に学力向上の手立ての声掛けができる体制を整える。

(5) チャレンジ学習

年4回、基礎学力テストを行う。教科は数学、英語の2教科で朝の会の終了後(テスト10分間、採点5分間)実施する。テストは3回セットで実施し、1回目と2回目はプレテストとし3回目をテストとする。3回目のテストでほぼ全員が合格となるように1回目と2回目のプレテストで指導を徹底する。テストの範囲は具体的に示し、あらかじめ類似した問題を基礎学習で学習できるように準備する。

(6) 家庭学習の充実

効果的な課題を設定して家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着とともに、自宅で勉強する習慣を付けるように指導する。具体的には、毎日の家庭学習として「漢字・数学・英語の1Pノート」に取り組む。これらを教科担任がチェックし、学習内容と提出状況を確認する。効果的な家庭学習を継続させることで確かな学力の定着につなげていきたい。

(7) 校内研修の充実

生徒が主体的に授業に取り組む姿を目指し、本年度は考えを深める手立ての工夫を切り口とした授業研究を行う。外部講師を招聘し、考えを深める手立てについて理解を深めたり、学年部体制での公開研究授業実践をしたりして、研修テーマの達成に向けて取り組む。

掛川市立北中学校

平成28年度 我が校のものがたり

1 「冀北ものがたり」のねらい



School Identity 冀北精神

- 大先輩達のように、目標に向かって、自分を高めよう
- 北中生徒としての誇りを持って生活しよう

- 北中独自の学力向上の実現
- 北中独自の授業改善

2 「冀北生徒」の学力の背景

〈全国学力学習状況調査から〉

- 各教科、基礎的な問題は正答率が高い。
- ▲一方、言葉を言い換えることや条件にそって書くことが苦手である。
- ▲目的に応じて読み取る力に弱さを感じる。
- ▲問題文の意味が分からないため、無回答になっている様子が見られる。
「数学A：数学用語の意味が曖昧で適切な回答が導けない」
「数学B：説明する力が不足しているため数学的見方や考え方が答えられない」

3 「冀北ものがたり」がめざす生徒および職員像

「生徒の授業力」の質を高め、学びを将来に活かす力をつけます。

「生徒の授業力」

教師から教えられたことだけを覚えるのではなく、教えられたことからプラスαの部分をつけ足したり、違った発想を考え出したり、自分なりのパフォーマンスで表現したりして、「学びを生かすことができる授業」「生徒たちで作り上げていく授業」とする。

- ① 生徒指導及び校内研修を「生徒の学びがみえる授業づくり」のキーワードのもとに学校体制として取り組む。
- ② 授業改善の視点「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を意識して授業改善を図る。
- ③ 授業を自立的にするための集団づくりを学級経営に生かす。
- ④ 「かけがわ学力向上ものがたり」を意識しかけがわ型スキルの実践を図る。

4 「冀北ものがたり」の「見える化」と「連動化」

校内研修の柱 「ものがたりの題名」

- ・ 定着を図るためのまとめの手立てについて
- ・ 実感のある学び合いのための小集団学習の深化

「冀北ものがたり」の具体

「ものがたりの見える化」

① 生徒の実態にあった効果的な導入

- ・具体物等による見える化
- ・生徒理解に基づき、一人一人の生徒が考えや意見を持てる発問



② 効果的な学習問題の提示

- ・「やってみたい」と思わせる発問
- ・導入の発問を再度考えるのではなく、導入からより思考が深くなる発問

③ 「生徒の授業力を高める場」の設定

- ・「小集団で話してみよう」ではなく、何を話し合えば良いのか、明確にわかる発問
 - ・考えや意見の紹介だけに終わらないように、学び合い、練りあう場の教師による設定
 - ・生徒に任せる小集団学習になるように、目的やねらいを明示する
(生徒に任せる分、教師が授業のねらいと道筋を持ち、実態に応じて適切な手立てを打つ)
- * 「生徒の授業を高める場」=例：小集団での話し合いや考えの練り合いの活動
資料や既存の知識を基に、新たな課題を考える活動

④ まとめる

- 「授業感想」や「がんばったこと」だけでなく、本時や単元の目標に合わせた振り返り
(毎時間でなくても良いが、単元や学習内容のまとまりで振り返る)

共通実践事項

「ものがたりの連動化」

①意見を順番で紹介するのではなく、生徒の考える力を高め合う小集団学習になるように話し合いのテーマや 目的、焦点を教師が伝える。

- ・苦手な生徒が関わることができる小集団学習
- ・子どもの実態に合った手立てや仕掛けがある小集団学習
- ・アイデアを練りあう小集団学習
- ・既存の知識や資料を基に新たな課題に取り組む小集団学習

②学習指導案には「育てたい生徒像」を明記する。

③ユニバーサルデザインの考えを生かした授業づくりをすすめる。

5 「冀北ものがたり」の将来像

教師

生徒の学びの姿を見取り、実態に合った手立てを打ちます。

生徒

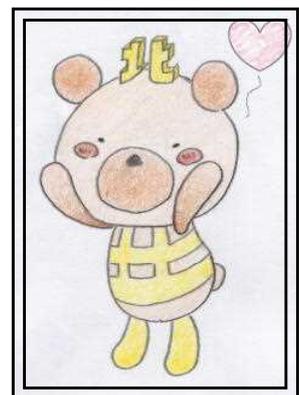
新たな課題についても自分たちが持っている知識などを基に考えます。

共に学ぶことができるように相手の話をよく聞きます。



『生徒の授業力』が高まり、主体的に学ぶ生徒』

目標に向かって自分を高めあう（冀北精神）姿を目指します



※イメージキャラクター 「きほくま」

掛川市立城東中学校

平成28年度 我が校のものがたり

報徳の心をうけつぎ、城東が大好きな子どもの育成

序論・・・一步踏み出す勇氣

私たちの生徒、城東中生は素直で前向きです。責任感もあります。しかし、自ら進んで問題を解決しようとしたり、工夫して新しいものを生み出したりということが得意ではありません。これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、コミュニケーション能力を備えるには、自分の考えをもち、仲間と考えを認め合い、共に学ぶ中で自信をつけていく必要があります。受け身から能動へ、「一步踏み出す勇氣」をもってほしいと願います。本年度は、「生徒が主体的に追究・表現し、『わかった』『できた』を実感できる授業」を目指します。

目指す生徒像

- ・まじめさを生かした対応、柔軟に判断できる子
- ・コミュニケーション力、面白みのある発想豊かな子
- ・気づく感じる感性、想像力をもち合わせた子
- ・優しさ、温かさ、お互いに助け合う力をもった子



本論①・・・授業改善からのアプローチ

研修テーマ「生徒が主体的に追究・表現し、『わかった』『できた』を実感できる授業」を意識した授業づくり

ア. 全員が取り組める、学びのユニバーサルデザインを重視した授業

今日の一時間で何を考え、何を達成するのか、学習指導要領に基づいた本時の目標をはっきりさせます（押さえる）。追究・表現活動の一助となる板書や教具を工夫します。さらにどの生徒も授業で活躍するために、授業形態も工夫していきます（仕掛ける）。振り返りの時間を大切にする授業を実践します。導入の時間は10分以内にし、追究・表現活動や振り返りの時間をたっぷりとります。生徒が本時の目標を達成したか、「わかった」「できた」を実感することができたかを確認します（確かめる）。

イ. 主体的に追究・表現する場面設定、方法の工夫

生徒が「一步踏み出す勇氣」を出すチャンス（場面）をつくります。生徒が自信をもって発表・活動ができるよう、思考・問題解決・意思決定に必要な知識・技能を確実に身に付けさせ、「やってみたい」「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という意欲がわくような問いを設定します。本年度は、追究方法・表現方法・教具・場面設定を工夫します。

ウ. 個の特性にそった指導・支援

個の特性をつかみ、支援を要する生徒に対する指導の工夫をします。つまづきのある生徒や内容の定着が不十分な生徒に対する個別支援を行います

本論②・・・城東学園化構想からのアプローチ

ア. 城東学園の教育力を活用

授業におけるゲストティーチャーや補充学習の支援者として地域の方を招き、魅力ある授業づくりと生徒の学力保障に努めます。

イ. 家庭学習の指導と確実な見届け

家庭の学習指導を、保幼小中で一貫して行っていくことを目的とし、「城東学園学習7か条」を各家庭へ配布し、それを基に各校種で子どもの発達段階に応じた内容を家庭へ働きかけていきます。

結論・・・勇気が『できた』につながる時

「今日の授業、〇〇がよくわかりました。」「前は苦手だったけど、今日の授業で〇〇ができるようになりました。」「今日は〇〇がわからなかったから、次はわかるようになりたいです。」など、授業の振り返りの際、生徒が、達成感や次への意欲につながる思いをもつことを期待します。

人とのかかわり・・・人間関係づくりを基盤

見える力

一歩踏み出す勇気

アドリブ力

プラスα力

学習指導部

<生徒が主体となる
授業改善・家庭学習>

- ◆主体的に授業に取り組む姿勢を育てる
- ◆共に創り上げる学習集団学習
- ◆個に応じた学習指導
- ◆朝読書の充実

- ・授業が楽しい【4.6】
- ・授業がわかる【4.3】

生活指導部

<授業改善のための
基本的な生活マナーづくり>

- ◆あいさつのできる生徒の育成
- ◆校内、地域でのあいさつの向上
- ◆基本的な生活マナーづくり
- ◆社会、授業のルールを遵守できる生徒
- ◆安全で機能的な学習環境の創造

- ・あいさつができる【4.3】
- ・課題を忘れない【4.5】

特別活動指導部

<生徒一人一人が活躍できる
学校づくり>

～生徒会活動・班活動の活性化～

- ◆専門委員会活動の充実
- ◆安心できる学級づくり
- ◆自己表現できる環境づくり
- ◆温かい人間関係づくり
- ◆ボランティア意識の向上

- ・学校が楽しい【4.5】
- ・気軽に相談できる【3.8】

5
ス
テ
ー
ジ

研究主題：「生徒一人一人が生き生きと取り組む授業」

研修テーマ：主体的に追究・表現し、「わかった」「できた」を実感できる授業

15年を見通した一貫性のある教育
城東学園化構想 願う子ども像

「報徳の心をうけつぎ、城東が大好きな子どもの育成」

掛川市立大浜中学校

平成28年度 我が校のものがたり

学校教育目標(目指す生徒像)

思いやりをもち 自ら鍛える生徒

重点目標

ともに 高めあう

研修テーマ

主体的・協働的な学びの研究～ICTの効果的な活用～

研究仮説

ICT を効果的に活用することによって、生徒が主体的・協働的に課題解決に向かって行動するため、学力を伸ばすことができる。

1 授業改善

→ 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)を意識した授業づくり

- 子どもたちが解決したい課題や問いの設定
- 考えるための材料の準備
- 「対話と思考」を取り入れた授業形態と展開の工夫
- 学習の成果を実感するための振り返りの確保

新たな学びのプロセスを意識した授業づくり

2 ICT の効果的な活用

→授業の効率化と「対話と思考」の深まりを促進させるための活用

タブレット端末、電子黒板、書画カメラ等の ICT 機器を用いて、

- 資料提示や資料配布の時間短縮をはかる
- 自分の考えを伝えるためのプレゼンテーション
- 互いの考えを共有し、比較・分析をする
- 作品やワークシートを蓄積し評価に生かす



ICT指定校としての長所を生かした授業づくり

「学力の土台」をつくる取り組み

補充学習

- ア 放課後スタディ
- イ テスト前補充学習(予想問題など)
- ウ 長期休業中の学習会など

家庭学習

- ア 1ページ学習の実施
- イ 読み取る力、書く力の向上(新聞記事の感想を予定帳に書く言語活動)

読書活動

- ア 朝8:00からの読書で落ち着いた1日のスタートをする
- イ 学校図書館司書との連携で魅力ある学校図書館づくりをする
- ウ 読み聞かせで絵本の良さに触れる



大浜中 マスコット
リプル

自治的な

生徒会活動

自律を重ん

じた生活

仲間を思い

やる心

地域に誇れ

る自慢

かけがわ型スキル

思考力・問題解決力・意志決定力

情報の選択、活用力

コミュニケーション力

地域や社会の中で生きるためのキャリア

を身につけた大浜中生

掛川市立大須賀中学校

平成28年度 我が校のものがたり

研修テーマ

これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して

これからの授業では、子どもたちが対話をしながら答えを見つけたり、わからないことを共有したりと、コミュニケーションをしながらよりよい答えを創り出すことが求められています。私たち教師は、今や正しい答えを教えるだけでなく、生徒にこれからの社会で求められている資質・能力を発揮させる授業を行う必要があるのです。



なぜ資質・能力が求められているのでしょうか。20世紀の社会は、先人たちが作り上げた知識や技能、考え方を継承すること、すなわち、知識を正確に把握したり、与えられた仕事を確実に効率よく実行したりすることが求められる社会でした。教師は、生徒たちをどのようにしたら設定したゴールへ到達させられるかを追究し、その到達具合によって生徒がもつ力を測ってきました。しかし、21世紀の社会は、めざましいスピードで変化していて、日々新しい問題が生まれています。私たちは、それらに対応した新しい知識や技能、考え方を作り出さなければなりません。技術進歩がめまぐるしく進む中で、これまで最適だと考えられた知識や技能、考え方では適応できないことも考えられるのです。

このような時代では、一時的に覚えた知識だけでは問題を解決できません。情報機器を活用しつつ、獲得した知識を状況によって創り変えたり、それをヒントにして新たな知識を生み出したりすることが必要です。また、一人の知識や技能、考え方では解決できない問題が生まれた時、様々な立場の人が集まって問題解決に挑むこともあります。つまり、他者と協働し、目標達成のためのよりよい答えを生み出す教科の本質的な力以外の力も求められているのです。2002年、これからの社会に求められる資質・能力として「21世紀型スキル」を世界の企業らが提唱しました。

そこで本校では、この「21世紀型スキル」を一つの資質・能力におけるモデルとして、授業を中心に教育課程全体でその育成をねらいます。

研修テーマを実現するための4つの手だて

1 おおすか型授業スタイルの確立

拡充された追究の時間の中で、生徒の資質・能力の育成を目指します。

2 コミュニケーション活動

資質・能力を発揮させるために必要な対人関係スキル（聞く、話す）の技術を訓練によって身につけさせます。週に一度朝の活動として会話活動を行います。

3 ICT指導力向上

主体的な学びを深めるためのツールとして、ICT機器の活用方法の開発や教員の活用指導力向上を図ります。

4 評価方法の改善

生徒の資質・能力を引き出すための評価、判断方法は、どのようなものが考えられるのかを研修を通して考えます。

学校教育目標 **誇りを持ち 共に生きる生徒**

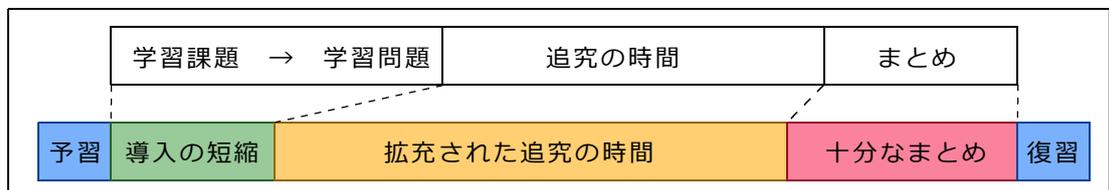
研究主題 これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して

教育課程全体で資質・能力を育む
生徒会活動「大須賀中学校向上宣言」 防災学習 キャリア教育



おおすか型授業スタイル

各教科で付けたい力・教科横断的な力
国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 英語



資質・能力を自発的に発揮する生徒の姿

<p>思考の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創造性とイノベーション 2. 批判的思考、問題解決、意思決定 3. 学び方の学習、メタ認知 <p>働く方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. コミュニケーション 5. コラボレーション（チームワーク） 	<p>働くためのツール</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 情報リテラシー 7. ICTリテラシー <p>世界の中で生きる</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. シチズンシップ 9. 人生とキャリア発達 10. 個人の責任と社会的責任 	<p>21世紀型スキル 国際団体ATC21S</p>
---	---	--------------------------------

研修の重点① **授業・単元デザインの工夫**

目標創出型授業で資質・能力が発揮される学びを生み出す
見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学び
習得・活用・探究という学習プロセスのなかで、問題発見・解決を念頭に置いた深い学び
他者との協働や外界の情報との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学び



研修の重点② **学習評価を生かした指導方法の改善**

レポートやグループ活動など多様な活動によるパフォーマンス評価を取り入れた多面的な評価の活用
形成的評価を単元内で設定するとともに、振り返り用紙や単元を貫く課題を用いる変容の評価の活用

ICT活用指導力 **基礎授業技術+教科指導力** **ファシリテーション力**

メンターチームによる校内OJT ～ベテランと若手の指導技術向上～
文部科学省委託事業 ICT活用指導力パワーアップコースによる研修



コミュニケーション活動 人間関係づくりプログラム